

中川村第6次総合計画後期基本計画
住民意識調査 報告書

2024 年 8 月

目次

I.	調査概要	1
1.	調査の目的.....	1
2.	調査の実施概要.....	1
3.	調査結果の数値の見方.....	1
4.	平均点の算出方法.....	2
II.	調査結果の概要.....	3
1.	回答者の状況.....	3
(1)	基本属性.....	3
(2)	生活の状況.....	4
(3)	住宅に関する考え.....	6
2.	幸福度と村への愛着.....	7
(1)	幸福度	7
(2)	村への愛着度.....	9
(3)	村に住み続けたいか.....	10
3.	村の施策についての評価・取組み状況・意向.....	11
(1)	施策に対する評価.....	11
(2)	生活における取組み状況.....	13
(3)	今後優先してほしい分野.....	14
(4)	日常生活で手助けしてほしいこと・手助けできること.....	14
III.	施策分野ごとの分析	15
1.	保健・福祉.....	15
(1)	施策評価.....	15
(2)	取組み状況.....	18
2.	教育・文化.....	20
(1)	施策評価.....	20
(2)	取組み状況.....	22
3.	防災・防犯.....	23
(1)	施策評価.....	23
(2)	取組み状況.....	24
4.	環境.....	25
(1)	施策評価.....	25

(2)	取組み状況.....	26
5.	産業.....	27
(1)	施策評価.....	27
6.	都市整備.....	29
(1)	施策評価.....	29
7.	行政経営.....	30
(1)	施策評価.....	30
(2)	取組み状況.....	31
IV.	総括.....	32
1.	結果のまとめ.....	32
2.	今後重点的に取り組むべきこと.....	33
(1)	施策全体の総括.....	33
(2)	施策分野ごとの総括.....	33

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、2020～2029 年度までの村の総合的な施策を示す「中川村第 6 次総合計画」の後期基本計画（2025～2029 年度）策定に向けて、住民の施策に対する評価や取り組みをはじめ、生活におけるニーズや問題等を把握するために実施した。

2. 調査の実施概要

本調査の実施概要を以下に示す。

調査対象者	中川村在住の満 18 歳以上の住民より、以下のとおり世代ごとに対象を抽出した。 ・ 18～45 歳……350 人 ・ 46～65 歳……350 人 ・ 66～80 歳……300 人 （合計 1,000 人）
調査法方法	郵送で配布し、回答は郵送および Web で受け付けた。
調査期間	令和 6 年 6 月 6 日～6 月 23 日（7 月 5 日到着分まで受け付けた）
有効回収数	464 人 （有効回収率 46.4%） 郵送回答 358 人、Web 回答 106 人

3. 調査結果の数値の見方

- 無回答を除いて集計しており、回答数の総数（以下、n と表記する）は設問ごとに異なる。
- 割合（％）は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100 にならない場合がある。

4. 平均点の算出方法

設問のうち、「幸福度」、「村への愛着」、「施策に対する評価」「生活における取組み状況」については、回答を得点化したうえで平均点を算出し、分析を行っている。得点化と平均点の算出方法、評価の基準について以下に示す。

1) 選択肢の得点化

「幸福度」の設問

0～10点の11段階での回答を得た。
回答された点数を、そのまま得点として分析に用いた。

「村への愛着」の設問

1～5点の5段階での回答を得た。
回答された点数を、そのまま得点として分析に用いた。

「施策に対する評価」の設問

そう思う	4点
ややそう思う	3点
あまりそう思わない	2点
そう思わない	1点

「生活における取組み状況」の設問

あてはまる	→4点
ややあてはまる	→3点
あまりあてはまらない	→2点
あてはまらない	→1点

2) 平均値の算出方法

回答者A	4点	}	(4点+3点+2点+3点+2点+・・・+X点) ÷回答者の人数=平均点
回答者B	3点		
回答者C	2点		
回答者D	3点		
回答者E	2点		
・・・			
回答者X	X点		

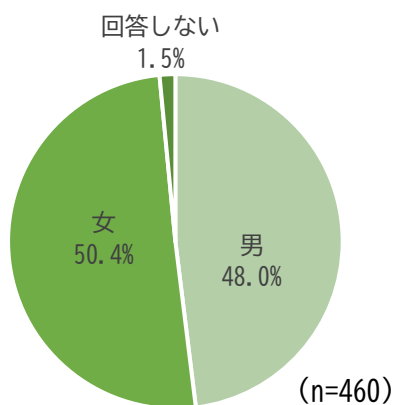
II. 調査結果の概要

1. 回答者の状況

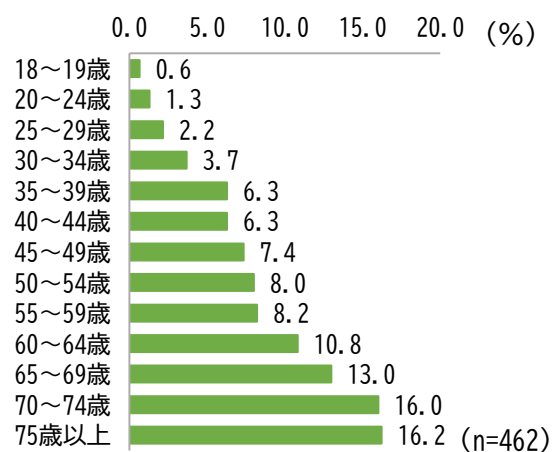
(1) 基本属性

- 回答者の基本属性は以下の通りである。

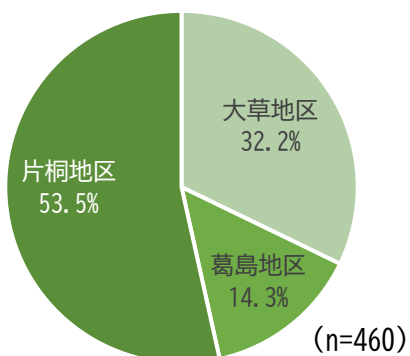
図表 1 性別



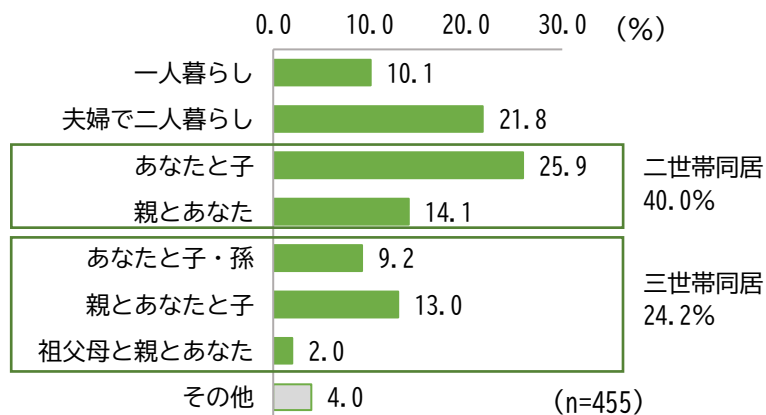
図表 2 年齢



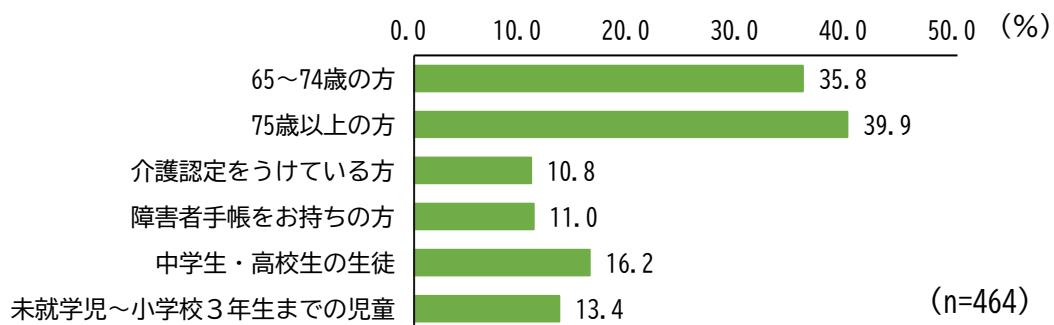
図表 3 居住地



図表 4 家族構成



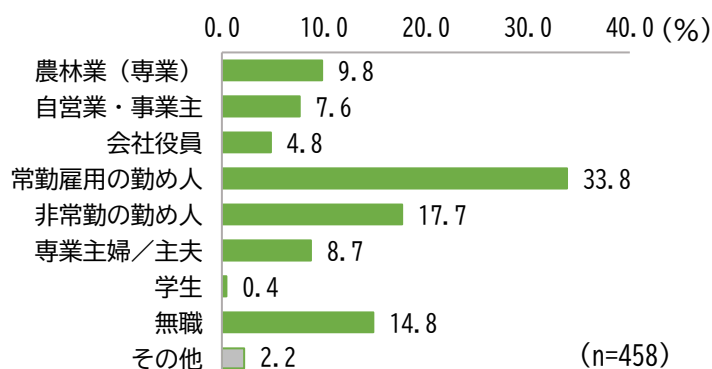
図表 5 配慮・教育を要する家族の有無（複数回答）



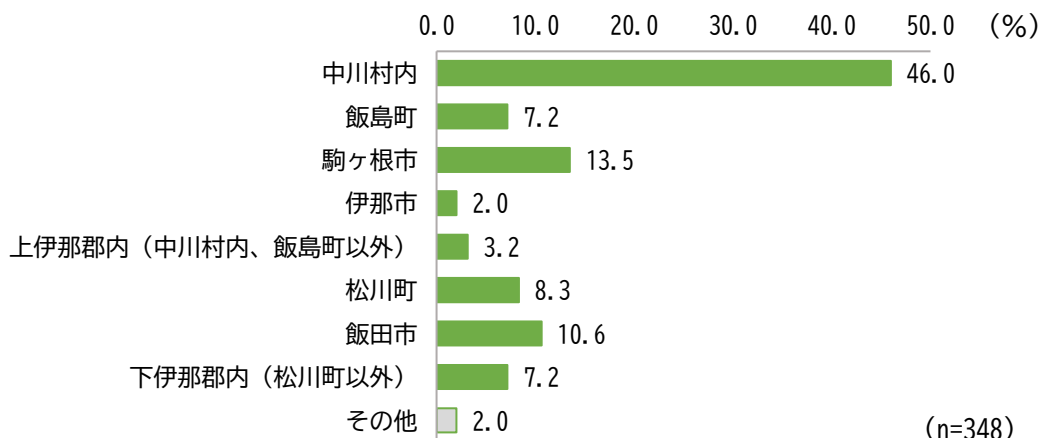
(2) 生活の状況

- 職業は、常勤雇用が 33.8%と最も割合が高く、次いで非常勤 17.7%、無職 14.8%等となっている。
- 通勤・通学をしている人の就業地・通学地をみると、中川村内が 46.0%である。村外では、駒ヶ根市が 13.5%、飯田市が 10.6%、松川町が 8.3%等となっている。
- 世帯年収は、200 万円未満が最も割合が高く 21.1%となっており、概ね年収が低い順に割合が高くなっている。

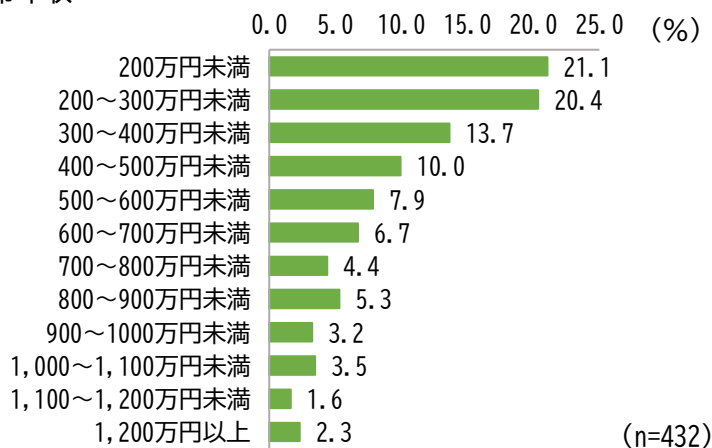
図表 6 職業



図表 7 就業地・通学地



図表 8 世帯年収



- 日用品などの購入場所をみると、「日常的な食料品や日用品」では「中川村内」が 38.5%と最も割合が高い。一方で「医薬品」「趣味や嗜好品」「家庭電化製品」「農作業等で必要なもの」はいずれも「松川町～飯田市の間」が最も高い割合となっている。
- よくつかう医療機関の受診場所をみると、「中川村内」が最も割合が高く、「かかりつけ医療機関」をもつ人の場合は 58.7%、もたない人の場合で 48.6%となっている。
- 隣近所の付き合いは、「ちょっとした助け合いや交流をする程度」が 52.3%と最も割合が高く、次いで「挨拶をするくらい」が 37.8%となっている。
- 地域活動への参加状況は、「PTA・自治会・公民館などの活動」のいずれかに参加している人は 50.7%と過半数を超えている。一方で「特に参加はしていない」人は 28.2%である。

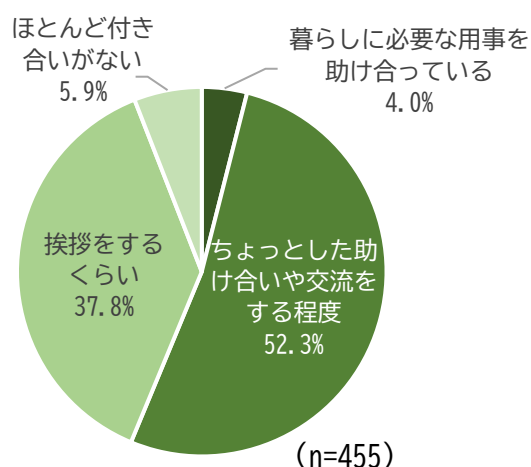
図表 9 日用品などの購入場所

	中川村内	飯島町～伊那市の間	松川町～飯田市の間	その他県内	その他	リモート／通信販売等	その機会があまりない
日常的な食料品や日用品(n=449)	38.5	24.3	33.4	1.1	0.2	0.7	1.8
医薬品(n=446)	12.8	22.6	58.7	0.7	0.2	0.9	4.0
趣味や嗜好品(n=441)	2.5	17.0	54.4	2.7	1.4	20.0	2.0
家庭電化製品(n=448)	0.2	35.3	44.4	1.6	0.7	10.9	6.9
農作業や家庭菜園などで必要なもの(n=444)	16.2	25.7	42.1	0.5	0.2	1.4	14.0

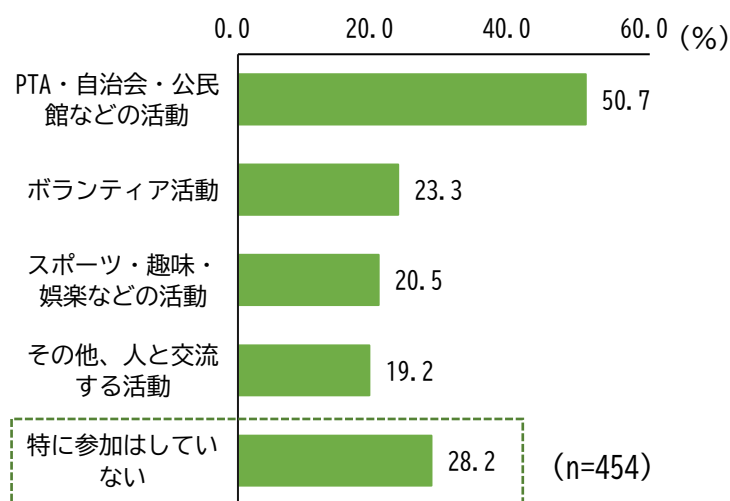
図表 10 医療機関の受診場所

	中川村内	飯島町～伊那市の間	松川町～飯田市の間	その他県内	特にない/わからない
かかりつけ医療機関の場所(n=453)	58.7	9.9	19.2	0.4	11.7
不調のときよくつかう医療機関の場所(n=394)	48.6	7.1	22.9	1.4	20.0

図表 11 隣近所との付き合い



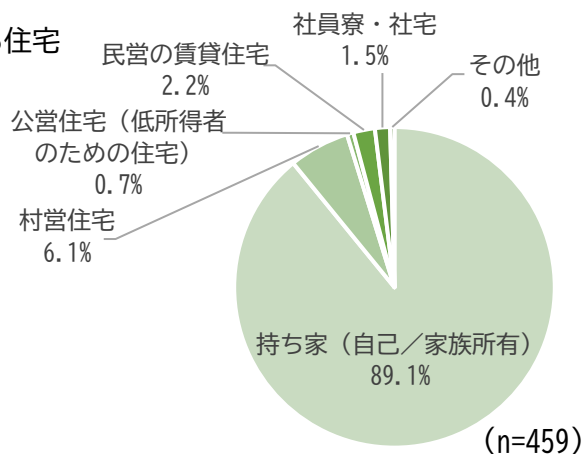
図表 12 地域活動への参加状況（複数回答）



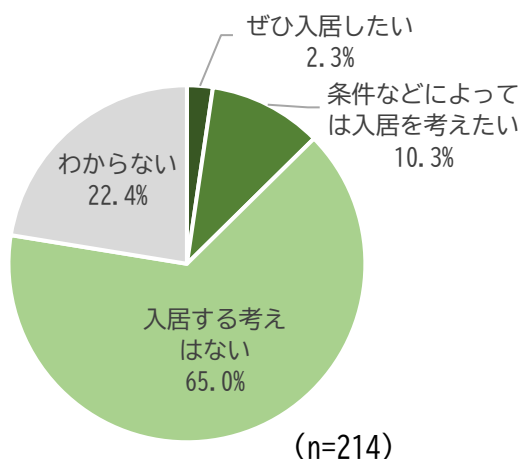
(3) 住宅に関する考え

- 現在居住している住宅は、「持ち家」が 89.1%、次いで「村営住宅」が 6.1%となっている。
- 転居予定がある人に「村営住宅」への入居希望をきいたところ、「ぜひ入居したい」は 2.3%、「条件などによっては考えたい」が 10.3%で、「入居する考えはない」が 65.0%となっている。
- 「ぜひ入居したい」または「条件などによっては考えたい」と回答した人に希望の形態をきいたところ、「単身向け」「高齢者向け」がいずれも 31.3%と最も割合が高かった。

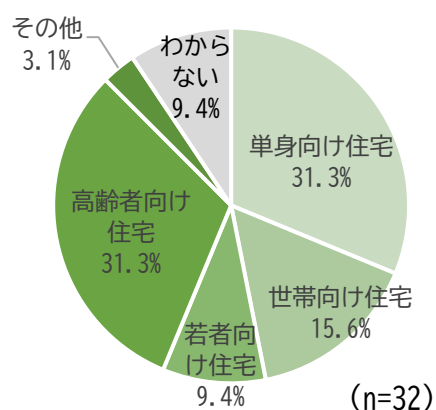
図表 13 居住している住宅



図表 14 村営住宅に入居したいか



図表 15 入居したい村営住宅の形態

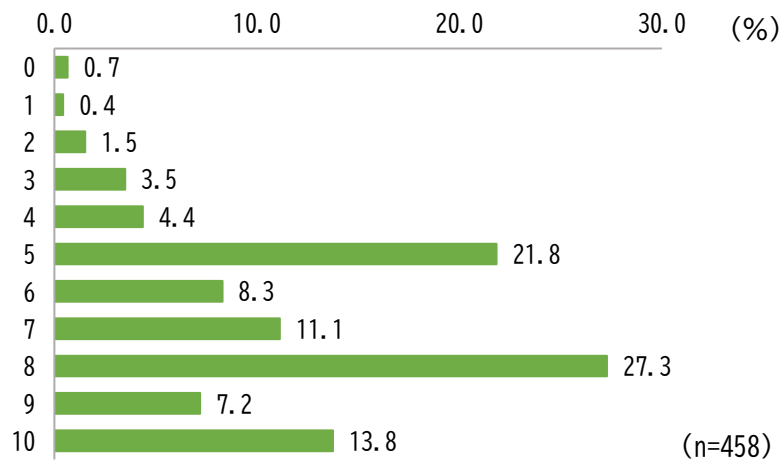


2. 幸福度と村への愛着

(1) 幸福度

- 0～10 点での 11 段階で幸福度をきいたところ、平均は 6.89 点となった。
- 11 段階の評価のなかで、比較的評価の高い 8 点（27.3%）と、評価の低い 5 点（21.8%）に、回答が多く集まっている。

図表 16 幸福度

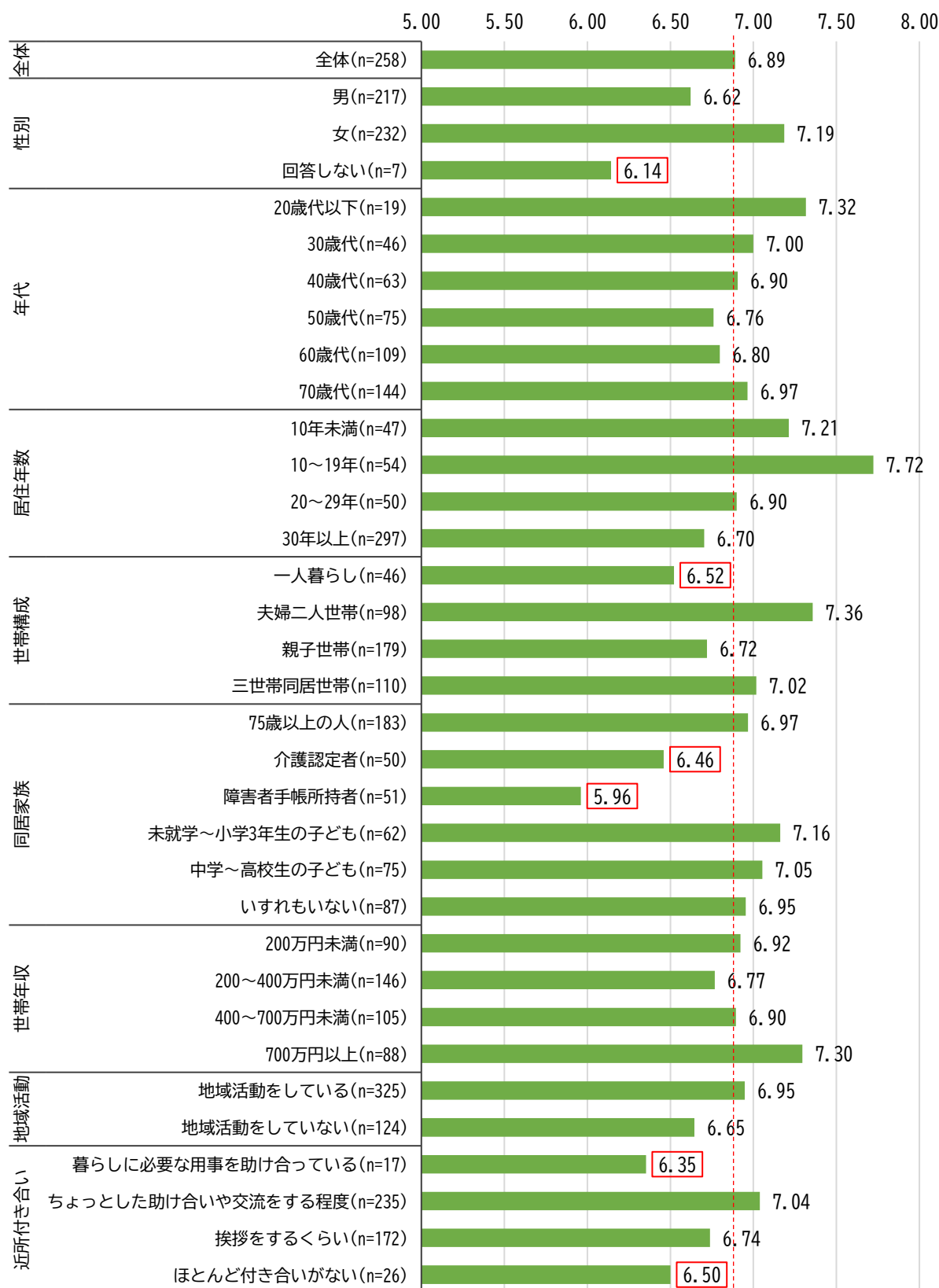


平均	6.89 点
----	--------

- 回答者の属性別に幸福度の平均値を比較すると、最も低いのが「障害者手帳保持者」の 5.96%、次いで「性別を回答しない人」の 6.14%などとなっている。

図表 17 幸福度（各属性別）

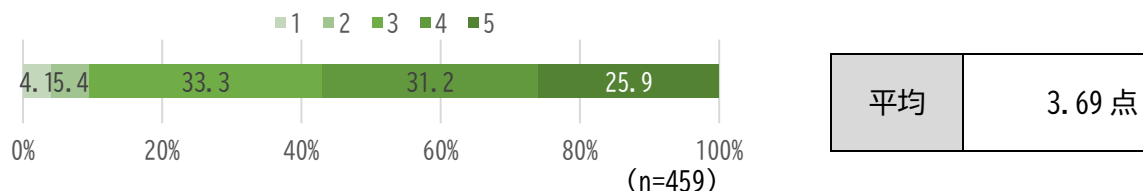
※平均値より 0.3 ポイント以上低いものを □ で示した



(2) 村への愛着度

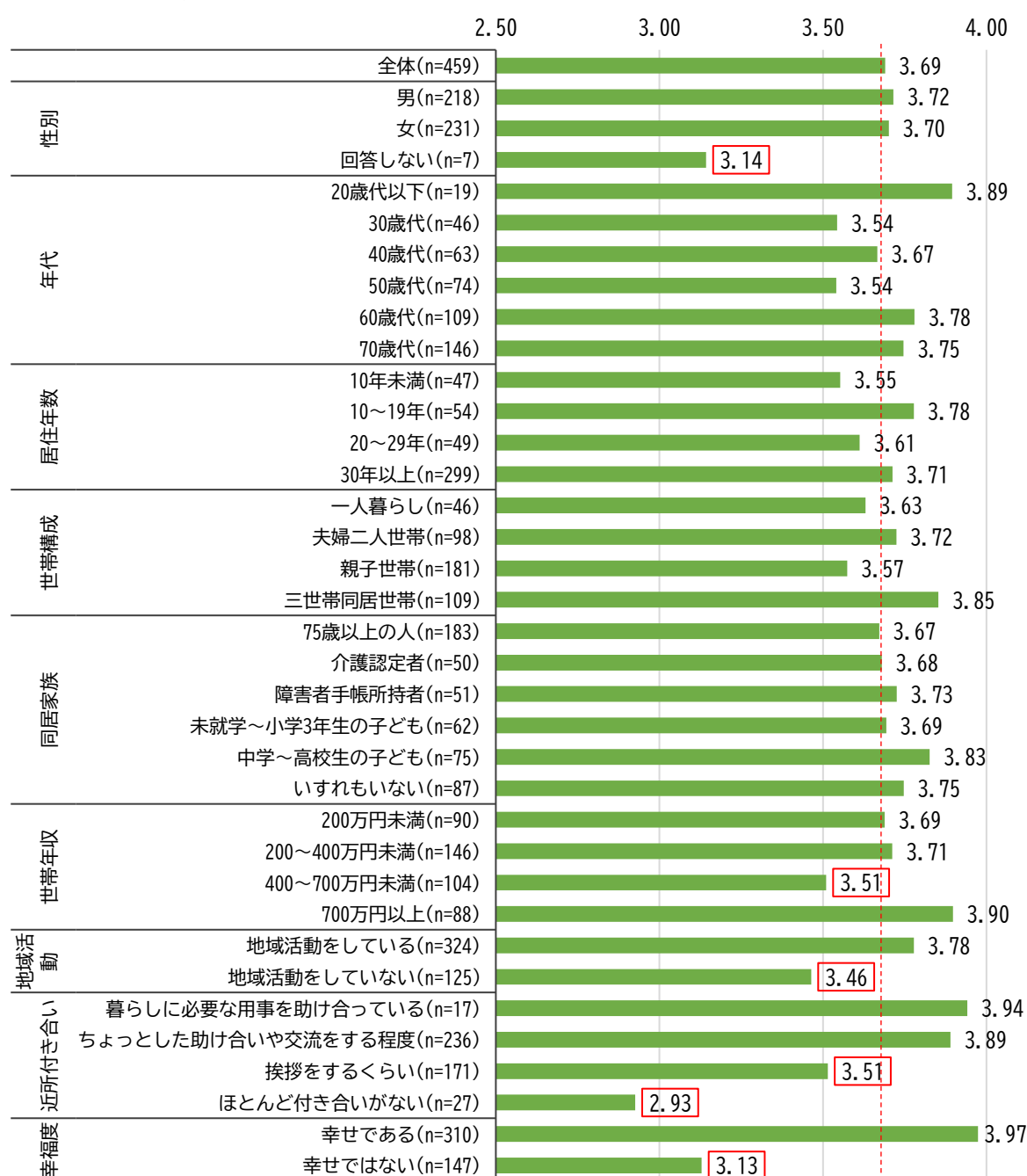
- 1～5の5段階で村への愛着度をきくと、平均は3.69点となった。
- 回答者の属性別に村への愛着度の平均値を比較すると、最も低いのが近所付き合いが「ほとんどない」人の2.93%、次いで幸福度が「幸せではない」人の3.13%、「性別を回答しない人」の3.14%等となっている。

図表 18 村への愛着



図表 19 村への愛着 (各属性別)

※平均値より0.15ポイント以上低いものを□で示した

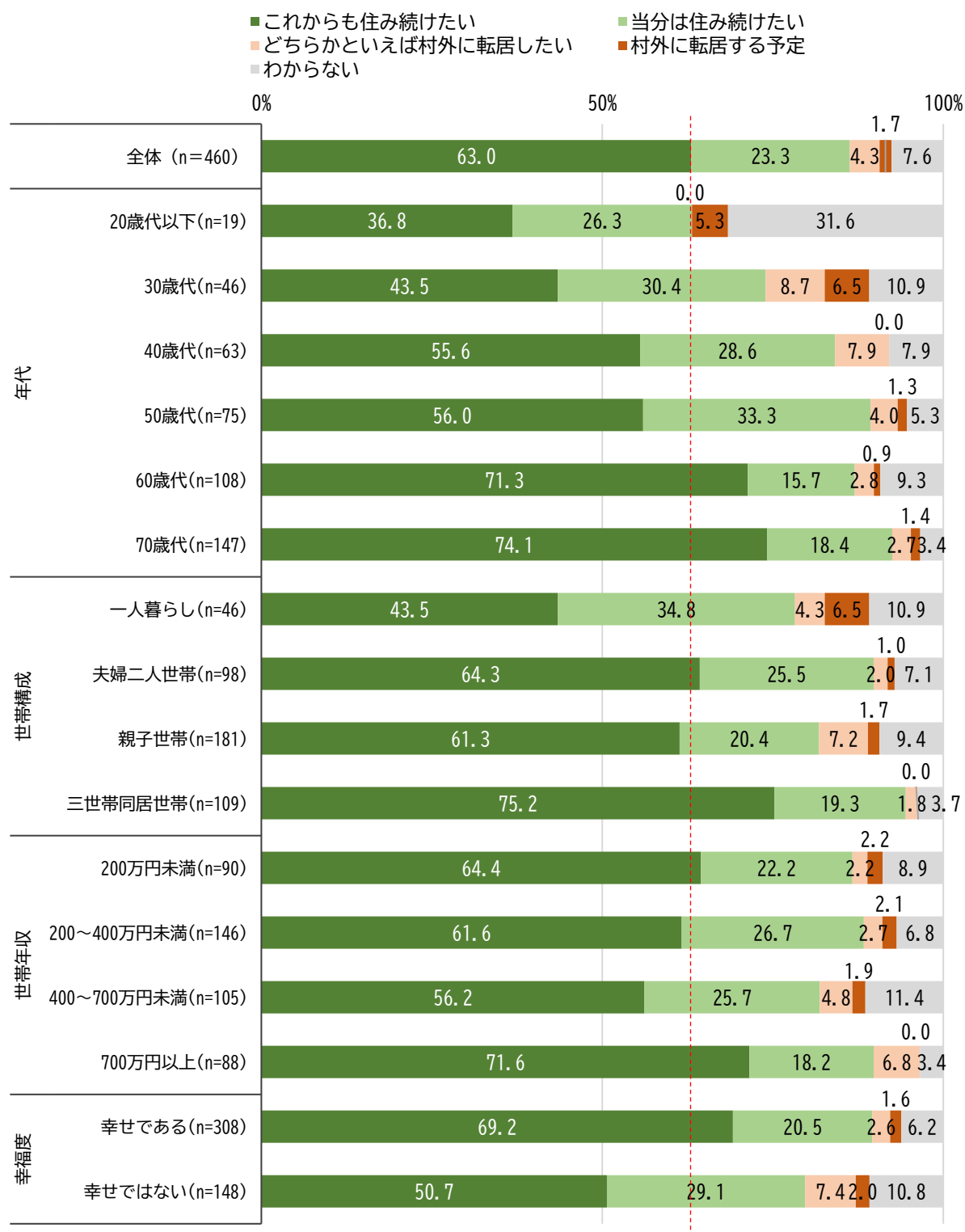


幸福度は、0～5点を「幸せではない」、6～10点を「幸せである」として集計した。

(3) 村に住み続けたいか

- 中川村にこれからも住み続けたいかをきくと、「住み続けたい」が 63.0%、「当分は住み続けたい」を含めると 86.3%となっている。「村外に転居する予定」「どちらかといえば村外に転居したい」の合計は 6.0%である。
- 回答者の属性別に比較すると、「住み続けたい」が最も低いのは「20 歳代以下」の 36.8%、次いで「一人暮らし」の 43.5%、「幸せではない」人の 50.7%等となっている。

図表 20 中川村にこれからも住み続けたいか



3. 村の施策についての評価・取り組み状況・意向

(1) 施策に対する評価

図表 21 施策に対する評価

		評価平均	2.59 点		
分野	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)	
保健・福祉	1 結婚から出産、子育てまで切れ目ない支援が行われている(n=448)	2.9	37.9	22.7	
	2 就業のために子どもを預けられる保育園や預かりサービスが整備されている(n=450)	3.1	31.1	4.2	
	3 助けを必要とする子どもたちに適切な支援が行われている(n=450)	2.8	46.0	6.8	
	4 高齢者がその個性や能力を活かして活躍している(n=448)	2.7	29.7	2.6	
	5 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている(n=452)	2.5	22.6	24.2	
	6 障がいのある人でも地域で暮らし続けられる環境が整っている(n=450)	2.3	41.8	3.6	
	7 生活に困った時に頼ることのできる体制がある(n=448)	2.4	41.7	15.6	
	8 悩みやこころの健康について相談できる体制がある(n=449)	2.5	40.3	5.7	
	9 村内や近隣の医療機関で必要な医療を受けることができる(n=454)	3.2	6.6	14.6	
教育・文化	10 子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる教育環境が整っている(n=427)	2.8	45.2	20.7	
	11 不登校やいじめなど子どもの悩みを相談できる体制がある(n=431)	2.5	54.1	13.9	
	12 地域が学校と連携して子どもたちの育成に関わっている(n=431)	2.8	38.7	12.5	
	13 公民館などで学びの機会が提供されている(n=430)	3.0	27.0	2.7	
	14 村の文化財や伝統文化が守られ、次世代に伝える体制が整っている(n=434)	2.7	27.4	7.1	
	15 気軽に文化芸術に触れる機会がある(n=435)	2.6	28.3	4.3	
	16 スポーツのしやすい環境が整っている(n=436)	2.8	21.6	6.0	
	17 差別や偏見なく互いの人権や生き方を尊重しあえる地域である(n=433)	2.6	28.2	32.9	
防災防犯	18 地震や台風などの災害が起きたとき適切に対応できる地域である(n=435)	2.7	26.7	72.4	
	19 地域の消防団の活動が充実しており、火事の防災・減災の力がある(n=436)	2.9	20.9	13.0	
	20 地域が防犯のための対策に取り組んでいる(n=437)	2.6	25.4	14.6	
環境	21 山や河川などで豊かな自然環境や稀少な動植物が保全・保護されている(n=430)	2.9	25.8	19.4	
	22 脱炭素・再生可能エネルギー活用による温暖化防止の取り組みが進んでいる(n=432)	2.2	43.3	16.4	
	23 騒音・悪臭・不法投棄などの公害が少ない地域である(n=436)	2.9	15.4	16.4	
	24 空き家や空き地が適切に管理・活用されている(n=438)	1.9	26.7	47.7	
産業	25 農地が有効に使われ、次世代の農業の担い手が育っている(n=437)	2.0	25.2	35.9	
	26 高く評価される農産物が生産・販売されている(n=434)	2.6	22.6	10.0	
	27 森林資源の活用が進んでいる(n=432)	2.1	37.5	5.4	
	28 地域資源を活用した新しいビジネスが生まれている(n=431)	2.0	41.8	10.0	
	29 観光客が訪れ、地域経済にいい影響を与えている(n=435)	1.9	26.0	17.3	
	30 時間や場所によらない柔軟な働き方ができる地域である(n=435)	1.9	35.4	7.8	
	31 就労についての情報が入手しやすく、支援制度の活用がしやすい(n=436)	1.9	39.9	13.5	
都市整備	32 生活道路が整備され、生活する上で必要な移動ができる環境が整っている(n=437)	2.9	7.3	16.7	
	33 公共交通により、車を運転できない人が日常生活に必要な移動ができる環境が整っている(n=437)	2.6	10.3	52.2	
	34 村営住宅や分譲地などがあり、住む場所をみつけやすい地域である(n=434)	2.6	25.3	12.6	
	35 自然豊かな村の景観が保たれている(n=433)	3.1	6.5	18.6	
行政経営	36 村役場と住民や地域団体が協働してむらづくりを行っている(n=437)	2.8	28.1	48.7	
	37 行政サービスが、利用しやすく効率的な形で提供されている(n=439)	2.7	23.9	43.7	
	38 公共施設が利用しやすい形で管理・運営されている(n=437)	2.8	23.6	7.6	

- 評価が比較的高い施策には、「村内や近隣の医療機関で必要な医療を受けることができる」(3.2)、「就業のために子どもを預けられる保育園や預かりサービスが整備されている」(3.1)、「自然豊かな村の景観が保たれている」(3.1)、「公民館などで学びの機会が提供されている」(3.0) などがある。分野でみると「健康・福祉」の子育て関係、「教育・文化」、「都市整備」などが比較的高い評価が高い。
- 評価が比較的低い施策には、「空き家や空き地が適切に管理・活用されている」(1.9)、「観光客が訪れ、地域経済にいい影響を与えている」(1.9)、「時間や場所によらない柔軟な働き方ができる地域で

ある」(1.9)、「就労についての情報が入手しやすく、支援制度の活用がしやすい」(1.9)。「農地が有効に使われ、次世代の農業の担い手が育っている」(2.0)、「地域資源を活用した新しいビジネスが生まれている」(2.0) などがある。分野で見ると「産業」の評価が低いほか、「保健・福祉」の福祉関係もやや評価が低くなっている。

- 「わからない」の割合が大きい施策としては、子どもや障がい者など当事者が限られる施策に多いほか、「脱炭素・再生可能エネルギー活用による温暖化防止の取組みが進んでいる」(43.3%)、「地域資源を活用した新しいビジネスが生まれている」(41.8%)などで高くなっており、施策の状況についての理解や関心が低い可能性がある。
- 重要だと思う割合は、各分野のなかではどの施策が重要かを1つだけきいたものである。保健・福祉では「高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている」「結婚から出産、子育てまで切れ目ない支援が行われている」、教育・文化では「差別や偏見なく互いの人権や生き方を尊重しあえる地域である」「子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる教育環境が整っている」、産業では「農地が有効に使われ、次世代の農業の担い手が育っている」などの重要性が比較的高くなっている。

(2) 生活における取組み状況

図表 22 生活における取組み状況

評価平均 2.41 点

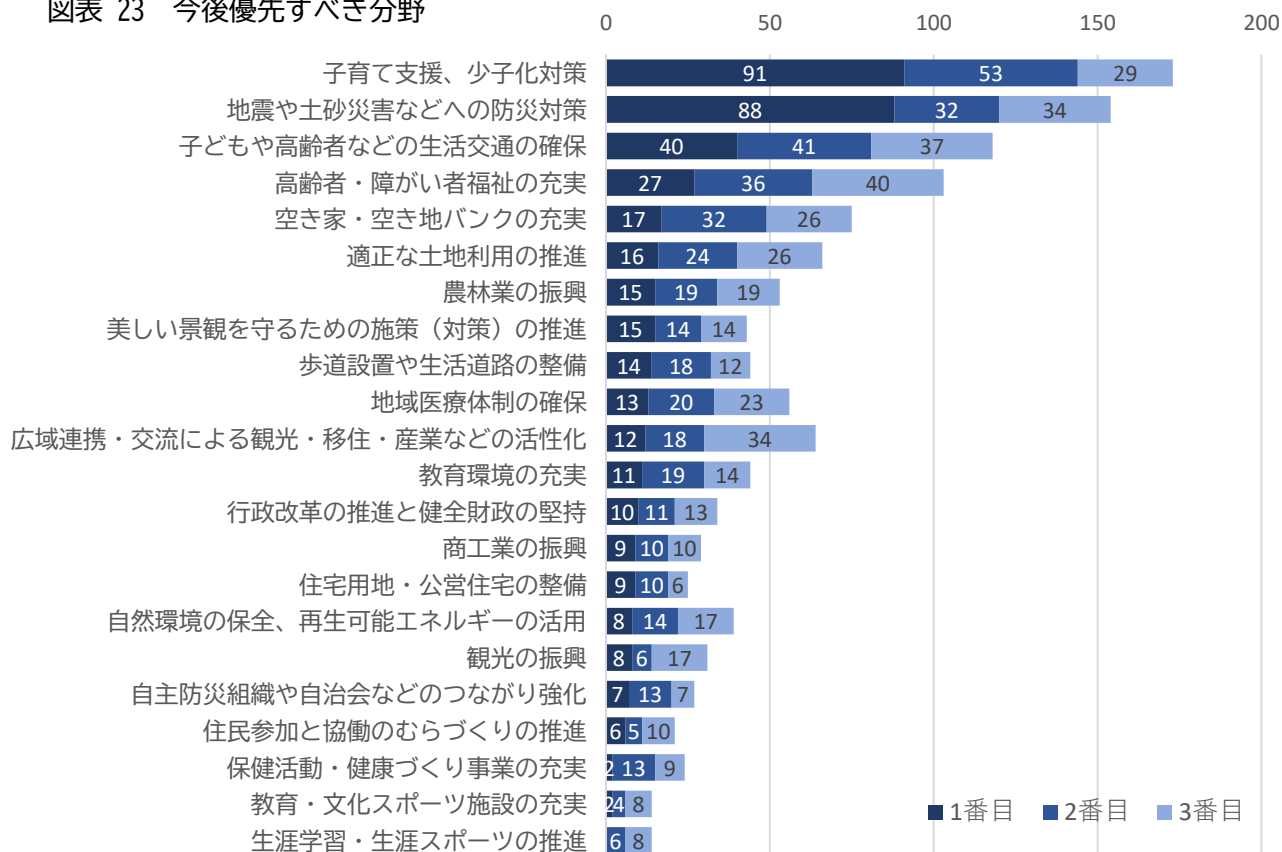
	取組み状況 (4~1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
ご近所の子どもを見守り、必要に応じてサポートしている (n=432)	2.0	9.0	22.8	0.8
ご近所と交流し、困った時に助け合える関係を築いている (n=435)	2.8	5.5	32.7	1.3
ご近所の高齢者を見守り、必要に応じて手助けしている (n=434)	2.3	6.5	32.5	1.1
困っている障がいのある人を見かけたとき、手助けをしている (n=435)	2.3	15.6	35.8	0.5
健康を保つために日ごろから意識的に行動している (食・運動・健診の受診など) (n=440)	3.0	2.5	42.5	0.5
楽しみや体力づくりなどのため、習慣的にスポーツを楽しんでいる (n=435)	2.1	2.1	31.1	0.3
自分の経験や知識をいかして地域活動に参加している (n=435)	1.9	5.7	20.8	2.4
郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている (n=433)	1.6	6.9	14.4	2.9
郷土の文化や魅力を村のこどもや若者に伝えている (n=433)	1.5	5.1	14.1	1.9
差別や偏見をもち、あらゆる人の権利や生き方を尊重するよう心がけている (n=434)	3.0	9.0	37.3	0.3
日頃から防災の意識をもち、そのための備えをしたり避難訓練に参加したりしている (n=436)	2.8	1.4	44.1	0.3
日頃から防犯の意識をもち、防犯対策や見守りなどに取り組んでいる (n=433)	2.4	4.2	36.8	0.3
自動車の運転や横断歩道の歩行時など、交通ルールやマナーを意識している (n=440)	3.5	0.5	49.5	0.5
節電・省エネや自動車利用を控えるなど、環境負荷の少ない暮らしを意識している (n=436)	2.7	2.8	44.1	0.3
ごみの抑制や資源の再利用に意識的に取り組んでいる (n=438)	3.0	2.1	45.5	0.3
自然環境を守り次世代に引き継ぐことを意識している (n=434)	2.7	8.5	36.0	0.3
公共交通を積極的に利用している (n=436)	1.5	2.8	10.3	0.5
自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している (n=435)	2.3	3.9	19.8	2.6

- 総合計画の施策に関連して、生活において住民が取り組むことが期待されているものについて、実際の取組み状況をきいたところ、多く取り組まれているものには「自動車の運転や横断歩道の歩行時など、交通ルールやマナーを意識している」(3.5)、「健康を保つために日ごろから意識的に行動している (食・運動・健診の受診など)」(3.0)、「差別や偏見をもち、あらゆる人の権利や生き方を尊重するよう心がけている」(3.0)、「ごみの抑制や資源の再利用に意識的に取り組んでいる」(3.0) などがある。
- 一方で取組み状況が少ないものには、「公共交通を積極的に利用している」(1.5)、「郷土の文化や魅力を村のこどもや若者に伝えている」(1.5)、「郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている」(1.6)、「自分の経験や知識をいかして地域活動に参加している」(1.9) などがある。
- 今後さらに取り組みたい割合が高いものとしては、「自動車の運転や横断歩道の歩行時など、交通ルールやマナーを意識している」(49.5%)、「ごみの抑制や資源の再利用に意識的に取り組んでいる」(45.5%) などがある。おおむね、現状で取り組まれていることほど、さらに取り組みたい割合も高くなる傾向がみられる。
- 一方で今後取組みを減らしていくものとしては、「郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている」(2.9%)、「自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している」(2.6%)、「自分の経験や知識をいかして地域活動に参加している」(2.4%) などがあり、こちらも現在の取組まれていないものほど高い傾向がある。

(3) 今後優先してほしい分野

- 今後優先してほしい分野について重要な順に3番目まできいたところ、1番目とした回答が最も多かったのは「子育て支援、少子化対策」、次いで「自身や土砂災害などへの防災対策」「生活交通の確保」などとなった。

図表 23 今後優先すべき分野



(4) 日常生活で手助けしてほしいこと・手助けできること

- 日常生活で手助けしてほしいことと手助けできることをきいたところ、手助けがほしいものは「畑の手入れ」13.8%、「草むしり・ごみ出し・雪かき」と「行政手続き」が11.6%などとなっている。このうち「畑の手入れ」「行政手続き」は、手助けできることの割合が25%以下（4人に1人）と比較的低い。他にも手助けできることの割合が低いものに「家事」「お金の管理」「薬の管理」などがある。

図表 24 日常生活での困りごと・手助けできること

	手助けがほしい (n=225)	手助けができる (n=258)
買い物や通院などの移動（車の運転など）	4.4%	64.0%
買い物や通院など外出時の付き添い	2.7%	51.2%
料理や洗濯、掃除などの家事	4.0%	27.5%
草むしり、ごみ出し、雪かきなど家の回りのこと	11.6%	51.6%
畑の手入れ	13.8%	24.8%
電球交換、灯油入れなどの日常での軽作業	3.6%	53.9%
家具の移動など簡単な力仕事	6.7%	38.8%
必要な行政手続きやそのための書類作成	11.6%	24.0%
金融機関の利用やお金の管理	4.9%	17.8%
薬の管理	1.8%	22.9%
両親や配偶者など、近親者の介助・介護	9.3%	38.4%
多忙な時、急用の時に子どもを預けること	4.9%	30.6%

III. 施策分野ごとの分析

1. 保健・福祉

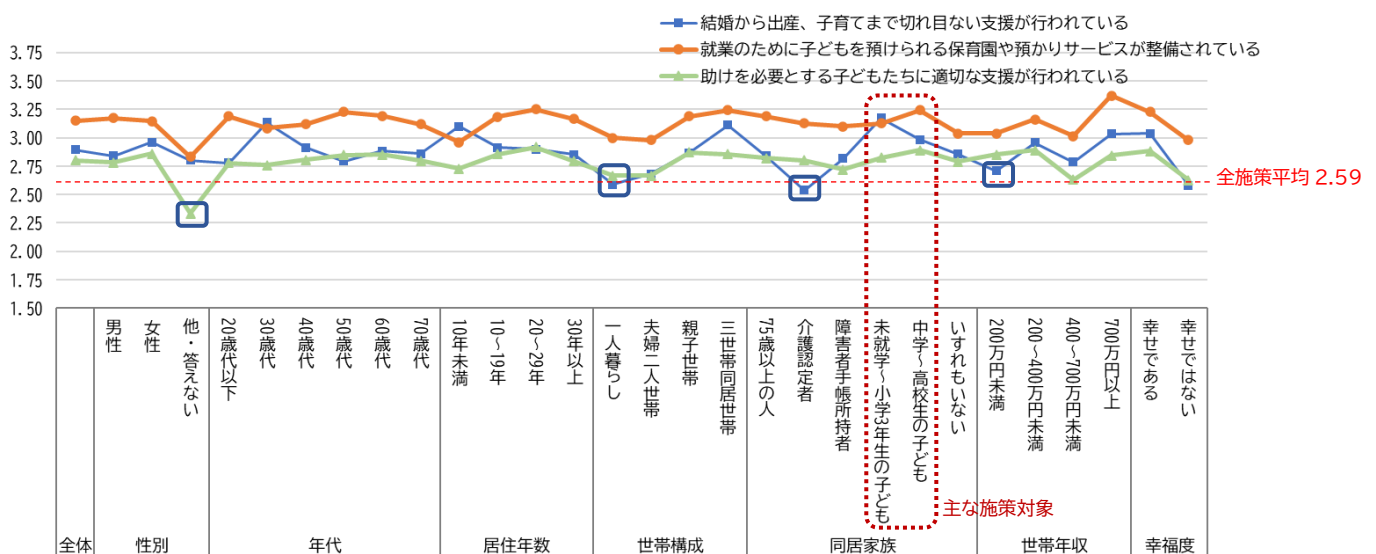
(1) 施策評価

①子ども・子育て

具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
1 結婚から出産、子育てまで切れ目ない支援が行われている(n=448)	2.9	37.9	22.7
2 就業のために子どもを預けられる保育園や預かりサービスが整備されている(n=450)	3.1	31.1	4.2
3 助けを必要とする子どもたちに適切な支援が行われている(n=450)	2.8	46.0	6.8

- 子ども・子育て関連の3施策をみると、全施策平均評価（2.59）を上回っている。
- 「結婚から出産、子育てまで切れ目ない支援が行われている」は、一人暮らし、介護認定者のいる世帯、年収 200 万円未満世帯で評価がやや落ちている。
- 「就業のために子どもを預けられる保育園や預かりサービスが整備されている」は、どの属性でも概ね高い水準である。
- 「助けを必要とする子どもたちに適切な支援が行われている」は、性別「他・答えない」で大きく評価が下がっている。

図表 25 属性ごとの施策評価／保健・福祉分野①（子ども・子育て）

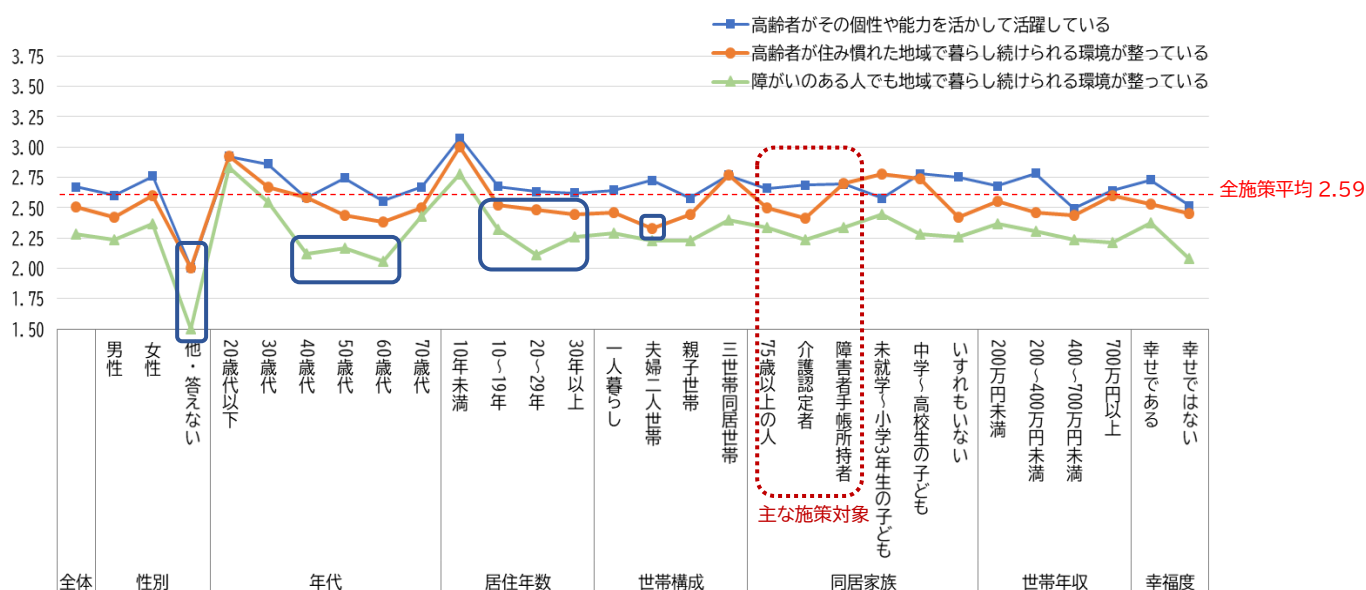


②高齢者および障がい福祉

具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
4 高齢者がその個性や能力を活かして活躍している(n=448)	2.7	29.7	2.6
5 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている(n=452)	2.5	22.6	24.2
6 障がいのある人でも地域で暮らし続けられる環境が整っている(n=450)	2.3	41.8	3.6

- 高齢者および障がい者福祉関連の3施策をみると、全施策平均評価(2.59)を下回る施策が複数ある。3施策とも性別「他・答えない」で大きく評価が下がっており、また居住年数「10年未満」の評価が高く、10年以上で相対的に低くなっている。
- 「高齢者がその個性や能力を活かして活躍している」は、平均評価は全施策平均より高く、先述した属性以外では概ね評価は同じ水準である。
- 「高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境が整っている」は、夫婦二世帯において評価がやや低くなっている。
- 「障がいのある人でも地域で暮らし続けられる環境が整っている」は、40歳代～60歳の年代において評価が低くなっている。

図表 26 属性ごとの施策評価／保健・福祉分野②（高齢者および障がい福祉）

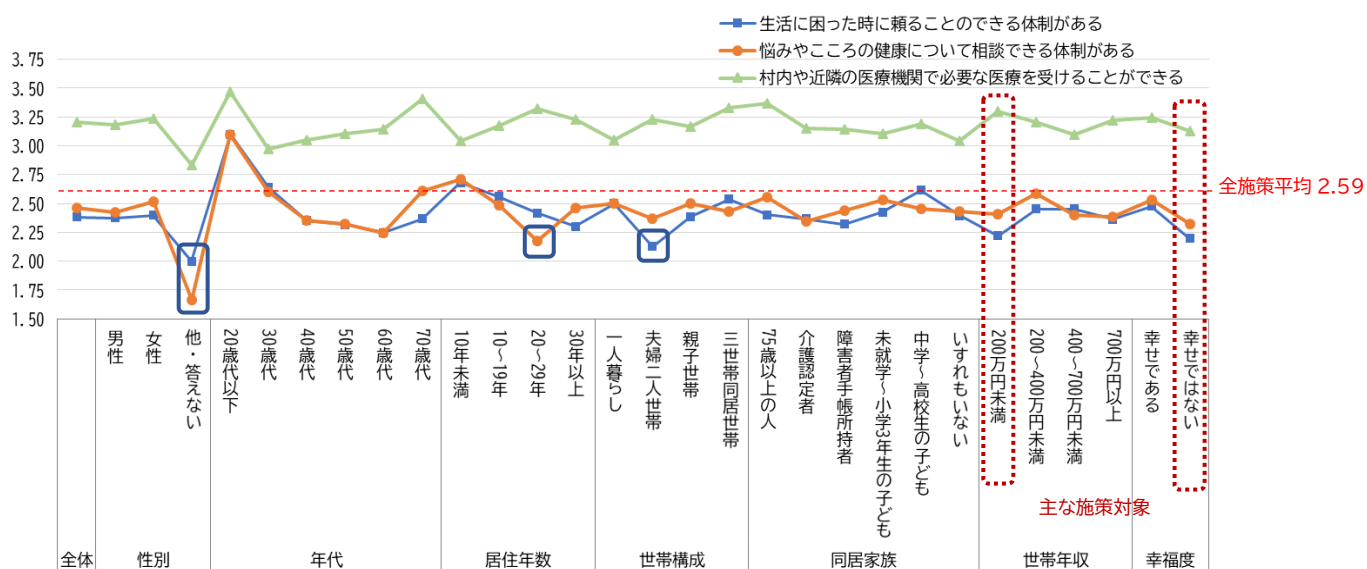


③生活やこころの悩み対応・医療体制

具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
7 生活に困った時に頼ることのできる体制がある(n=448)	2.4	41.7	15.6
8 悩みやこころの健康について相談できる体制がある(n=449)	2.5	40.3	5.7
9 村内や近隣の医療機関で必要な医療を受けることができる(n=454)	3.2	6.6	14.6

- 「生活に困った時に頼ることのできる体制がある」「悩みやこころの健康について相談できる体制がある」の2施策は、いずれも全施策平均評価（2.59）を下回っている。
- 「生活に困った時に頼ることのできる体制がある」は、「年収 200 万円未満」「幸せではない」のいずれでも評価が下がっているほか、性別「他・答えない」および「夫婦二世帯」でも評価が低くなっている。
- 「悩みやこころの健康について相談できる体制がある」は、性別「他・答えない」、居住年数「20～29 年」「幸せではない」で評価が低くなっている。
- 「村内や近隣の医療機関で必要な医療を受けることができる」施策については、全施策平均評価を上回っており、概ねどの属性からも評価が得られている。

図表 27 属性ごとの施策評価／保健・福祉分野③（生活やこころの悩み対応・医療体制）



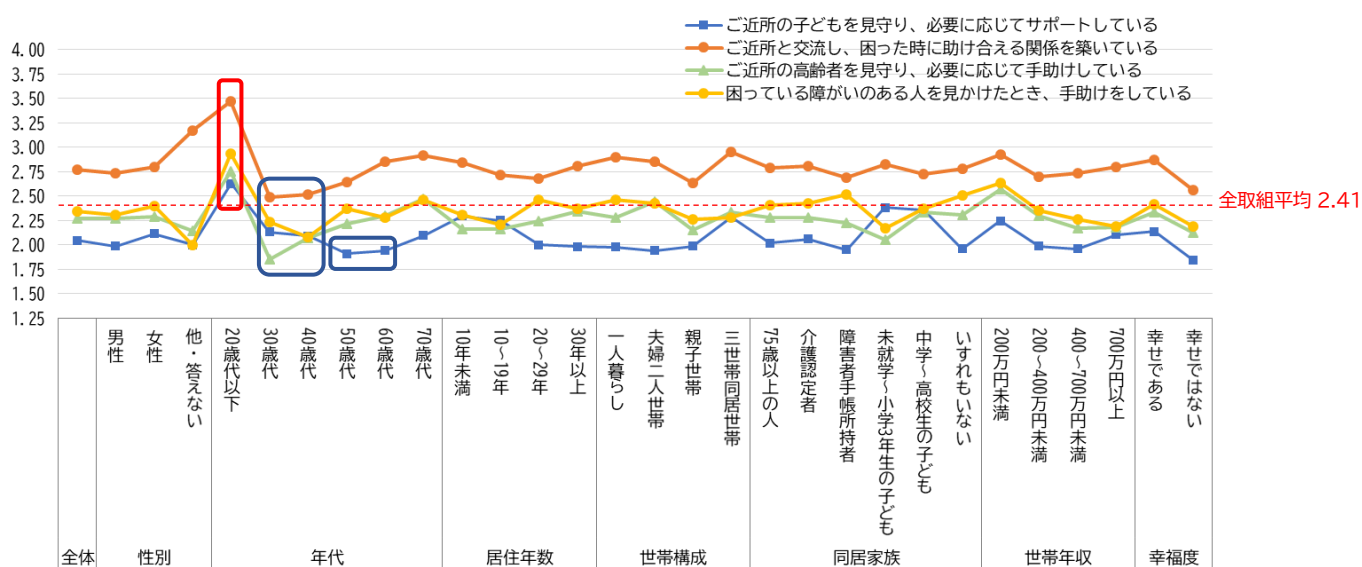
(2) 取組み状況

① 支え合いの取組み

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
ご近所の子どもを見守り、必要に応じてサポートしている(n=432)	2.0	9.0	22.8	0.8
ご近所と交流し、困った時に助け合える関係を築いている(n=435)	2.8	5.5	32.7	1.3
ご近所の高齢者を見守り、必要に応じて手助けしている(n=434)	2.3	6.5	32.5	1.1
困っている障がいのある人を見かけたとき、手助けをしている(n=435)	2.3	15.6	35.8	0.5

- 保健・福祉分野において住民に求められる取組みのうち、支え合いの取組み状況をみると、全取組み平均を上回っているのは「ご近所と交流し、困った時に助け合える関係を築いている」で、他の取組みは平均より低くなっている。
- 属性別にみると、「20 歳代以下」の取組み状況が高くなっており、30 歳代以上では相対的に取組み状況が低くなる傾向がみられる。また「ご近所の子どもを見守り、必要に応じてサポートしている」については、「三世帯同居世帯」および子どもが同居している家庭において取組み状況が高くなっている。

図表 28 属性ごとの取組み状況／保健・福祉分野（助け合い）

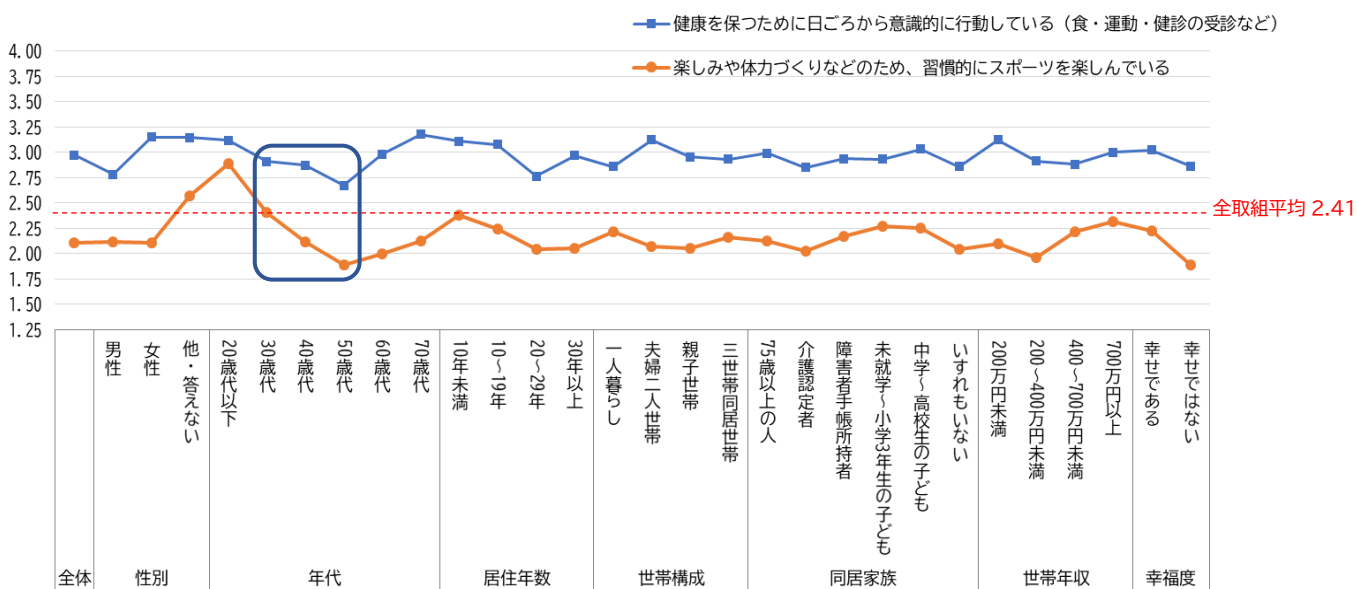


②健康づくりの取組み

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
健康を保つために日ごろから意識的に行動している（食・運動・健診の受診など）（n=440）	3.0	2.5	42.5	0.5
楽しみや体力づくりなどのため、習慣的にスポーツを楽しんでいる（n=435）	2.1	2.1	31.1	0.3

- 保健・福祉分野において住民に求められる取組みのうち、健康づくりの取組み状況をみると、「健康を保つために日ごろから意識的に行動している」は全取組み平均を上回っている一方で、「楽しみや体力づくりなどのため、習慣的にスポーツを楽しんでいる」は平均より低くなっている。
- 属性別にみると、「30 歳代」～「50 歳代」の中年層で取組み状況が低い傾向がある。

図表 29 属性ごとの取組み状況／保健・福祉分野（健康づくり）



2. 教育・文化

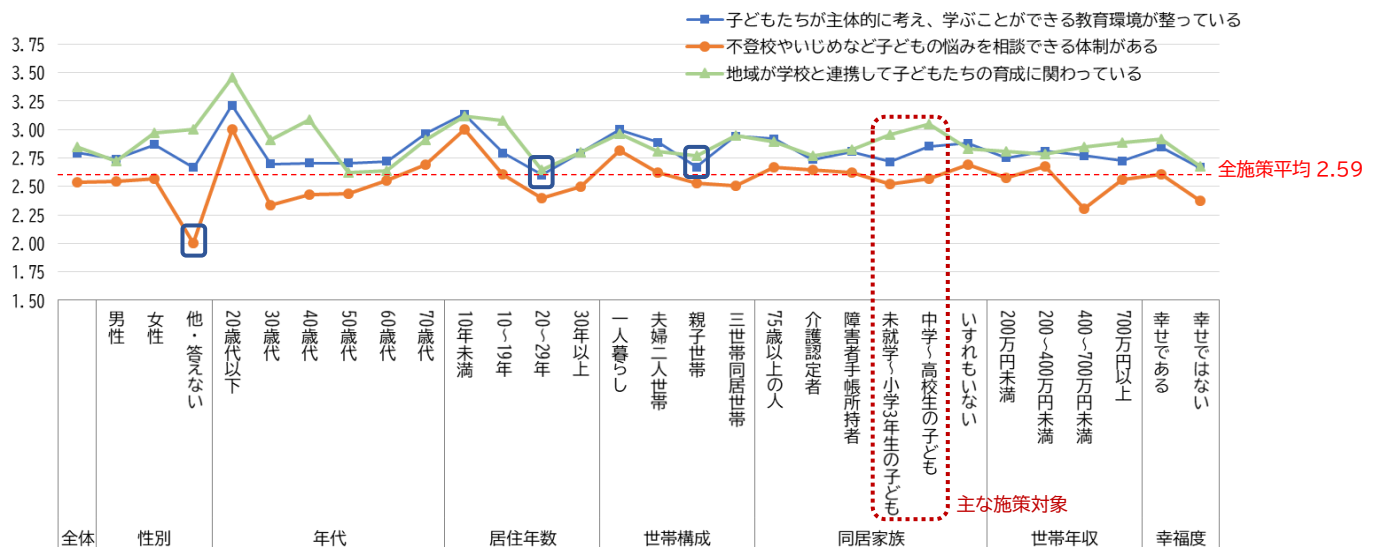
(1) 施策評価

①子どもの教育・学習環境

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
10	子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる教育環境が整っている(n=427)	2.8	45.2	20.7
11	不登校やいじめなど子どもの悩みを相談できる体制がある(n=431)	2.5	54.1	13.9
12	地域が学校と連携して子どもたちの育成に関わっている(n=431)	2.8	38.7	12.5

- 子どもの教育・学習環境に関する3施策をみると、「子どもたちが主体的に考え、学ぶことができる教育環境が整っている」「地域が学校と連携して子どもたちの育成に関わっている」は全施策平均評価(2.59)を上回っている。属性別にみても大きく低下しているところはないが、居住年数「20～29年」や「親子世帯」でやや低くなっている。
- 「不登校やいじめなど子どもの悩みを相談できる体制がある」は、施策平均評価(2.59)わずかに下回った。属性別では、性別が「他・答えない」で大きく低下している。

図表 30 属性ごとの施策評価／教育・文化分野(子どもの教育・学習環境)

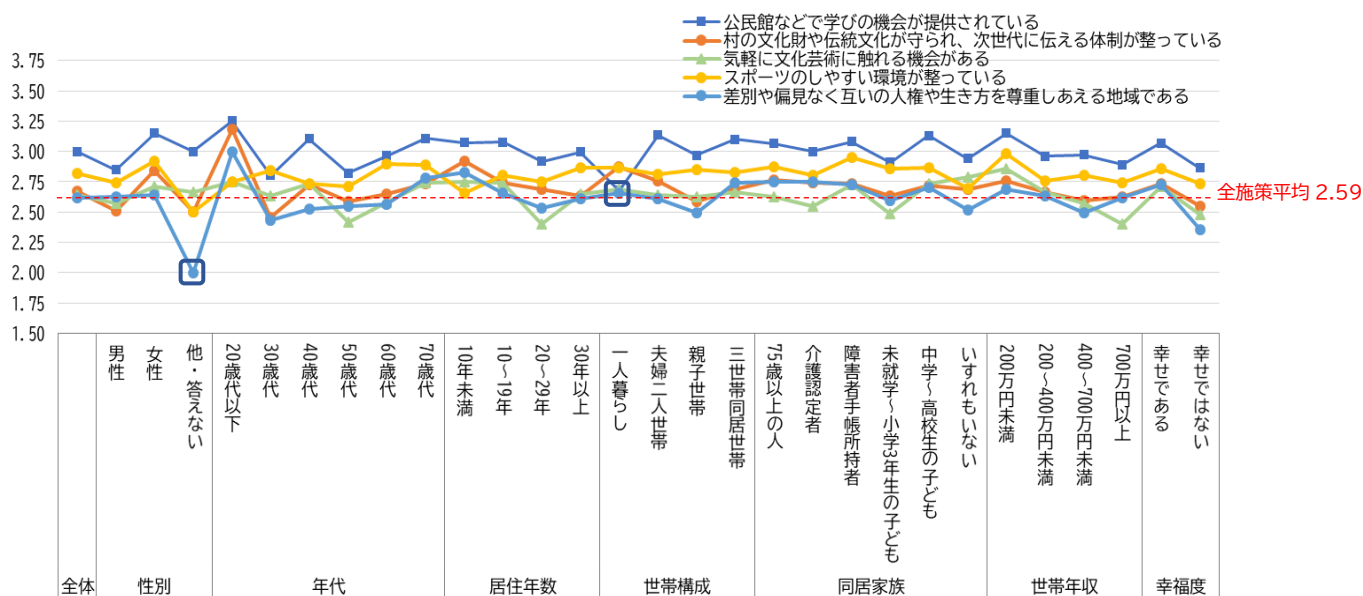


②生涯学習・文化スポーツ振興・人権教育

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
13	公民館などで学びの機会が提供されている(n=430)	3.0	27.0	2.7
14	村の文化財や伝統文化が守られ、次世代に伝える体制が整っている(n=434)	2.7	27.4	7.1
15	気軽に文化芸術に触れる機会がある(n=435)	2.6	28.3	4.3
16	スポーツのしやすい環境が整っている(n=436)	2.8	21.6	6.0
17	差別や偏見なく互いの人権や生き方を尊重しあえる地域である(n=433)	2.6	28.2	32.9

- 生涯学習・文化スポーツ振興・人権教育に関する5施策は、いずれも全施策平均評価(2.59)を上回っている。
- 属性別にみると、「差別や偏見なく互いの人権や生き方を尊重しあえる地域である」で、性別「他・答えない」の評価が大きく下がっている。また「公民館などで学びの機会が提供されている」は概ね評価が高いものの「一人暮らし」で評価が大きく下がっている。

図表 31 属性ごとの施策評価／教育・文化分野(生涯学習・文化スポーツ振興・人権教育)



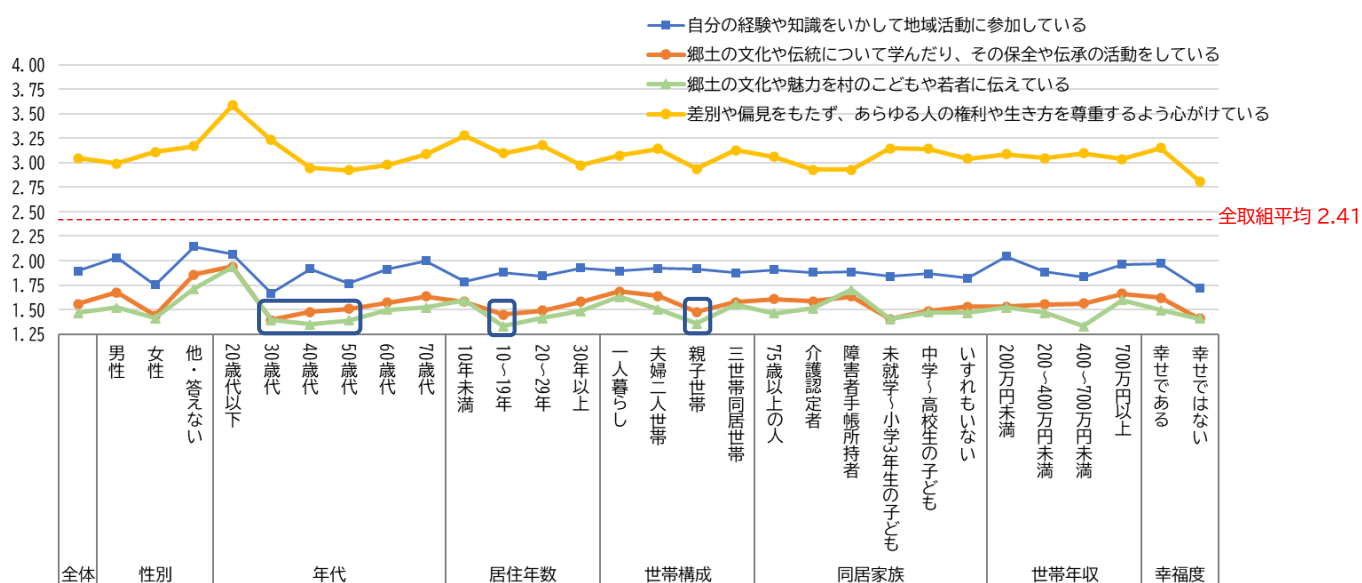
(2) 取組み状況

○地域活動・郷土文化の学びや伝承・人権尊重

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
自分の経験や知識をいかして地域活動に参加している(n=435)	1.9	5.7	20.8	2.4
郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている(n=433)	1.6	6.9	14.4	2.9
郷土の文化や魅力を村のこどもや若者に伝えている(n=433)	1.5	5.1	14.1	1.9
差別や偏見をもたず、あらゆる人の権利や生き方を尊重するよう心がけている(n=434)	3.0	9.0	37.3	0.3

- 教育・文化分野において住民に求められる取組みをみると、「差別や偏見をもたず、あらゆる人の権利や生き方を尊重するよう心がけている」では全取組み平均より高くなっている一方で、「自分の経験や知識をいかして地域活動に参加している」「郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている」「郷土の文化や魅力を村のこどもや若者に伝えている」についての取組み状況は平均を下回っている。
- 属性別にみると、「郷土の文化や伝統について学んだり、その保全や伝承の活動をしている」「郷土の文化や魅力を村のこどもや若者に伝えている」では、「20歳代以下」の取組み状況が高い一方で「30歳代」～「50歳代」が相対的に低くなっているほか、居住年数「10～19年」や「親子世帯」などでの取組み状況が低くなっている。

図表 32 属性ごとの取組み状況／教育・文化分野



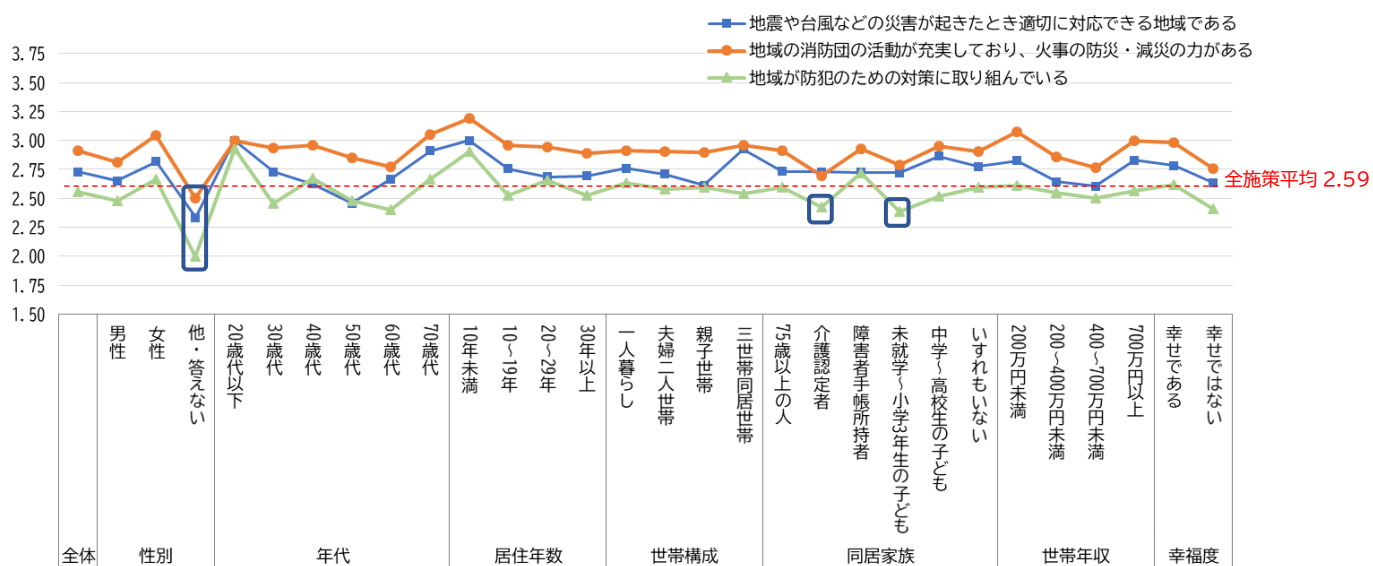
3. 防災・防犯

(1) 施策評価

具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
18 地震や台風などの災害が起きたとき適切に対応できる地域である (n=435)	2.7	26.7	72.4
19 地域の消防団の活動が充実しており、火事の防災・減災の力がある (n=436)	2.9	20.9	13.0
20 地域が防犯のための対策に取り組んでいる (n=437)	2.6	25.4	14.6

- 防災・防犯分野の3施策をみると、いずれも全施策平均評価（2.59）を上回っている。
- 属性別にみると、性別「他・答えない」でいずれの施策の評価も低下しているほか、「地域が防犯のための対策に取り組んでいる」については「介護認定者」「未就学～小学3年生の子ども」が同居している家庭などで評価がやや低くなっている。

図表 33 属性ごとの施策評価／防災・防犯分野

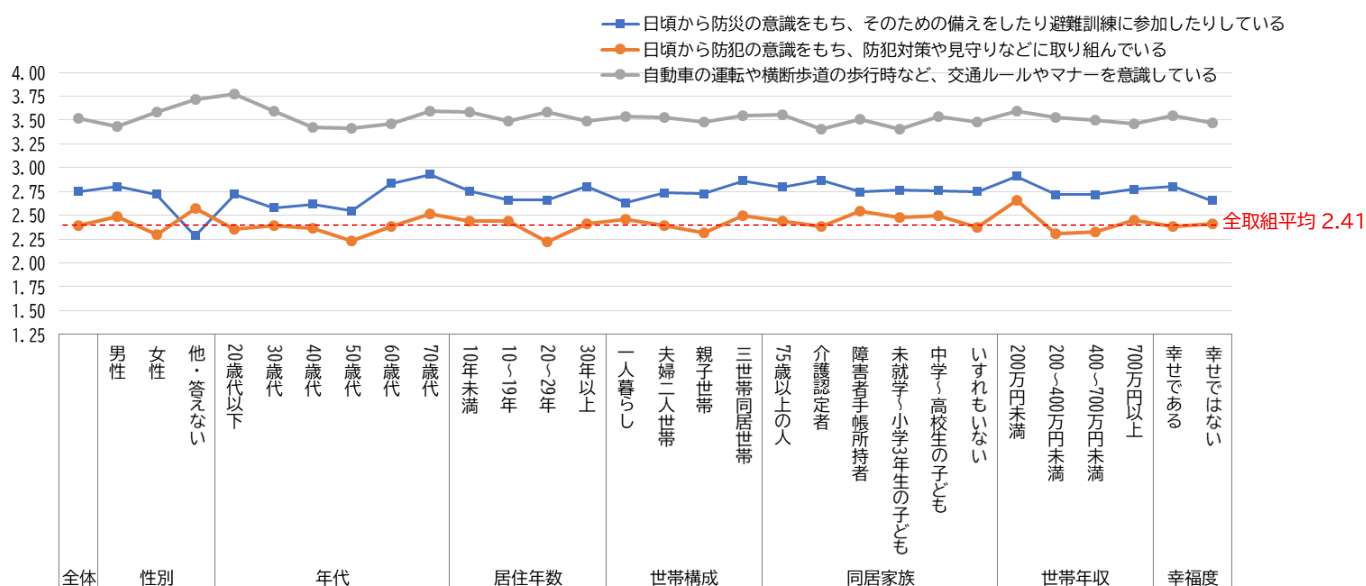


(2) 取組み状況

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
日頃から防災の意識をもち、そのための備えをしたり避難訓練に参加したりしている(n=436)	2.8	1.4	44.1	0.3
日頃から防犯の意識をもち、防犯対策や見守りなどに取り組んでいる(n=433)	2.4	4.2	36.8	0.3
自動車の運転や横断歩道の歩行時など、交通ルールやマナーを意識している(n=440)	3.5	0.5	49.5	0.5

- 防災・防犯分野において住民に求められる取組みをみると、おおむね全取組み平均と同じかこれを上回っている。
- 属性別にみても、特定の属性で大きく取組み状況が低下しているところはあまり見受けられない。

図表 34 属性ごとの取組み状況／防災・防犯分野



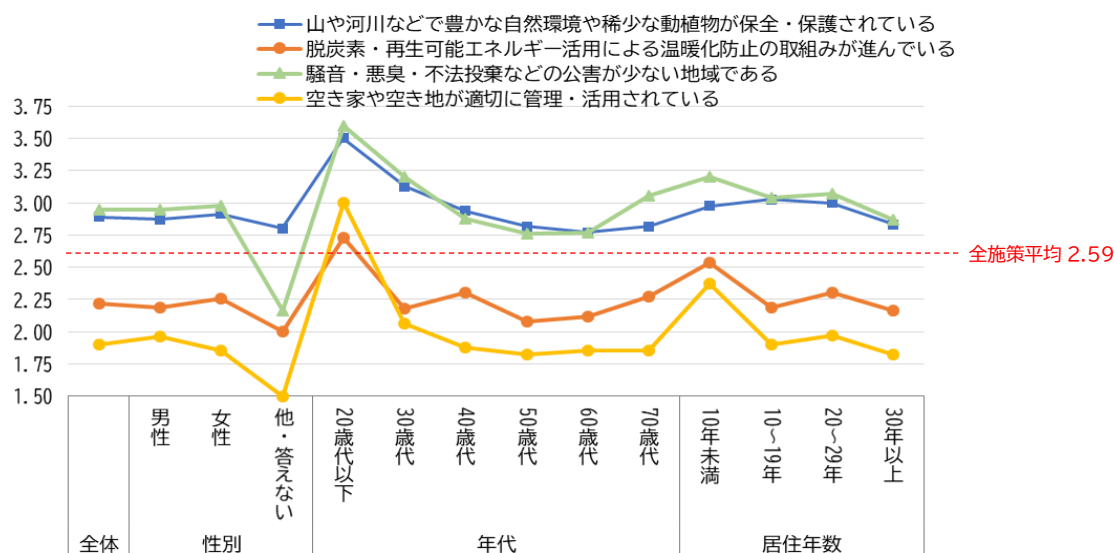
4. 環境

(1) 施策評価

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
21	山や河川などで豊かな自然環境や希少な動植物が保全・保護されている(n=430)	2.9	25.8	19.4
22	脱炭素・再生可能エネルギー活用による温暖化防止の取組みが進んでいる(n=432)	2.2	43.3	16.4
23	騒音・悪臭・不法投棄などの公害が少ない地域である(n=436)	2.9	15.4	16.4
24	空き家や空き地が適切に管理・活用されている(n=438)	1.9	26.7	47.7

- 環境分野の4施策をみると、「山や河川などで豊かな自然環境や希少な動植物が保全・保護されている」「騒音・悪臭・不法投棄などの公害が少ない地域である」については、全施策平均評価（2.59）を上回っている。
- 一方で「脱炭素・再生可能エネルギー活用による温暖化防止の取組みが進んでいる」「空き家や空き地が適切に管理・活用されている」については、全施策平均評価を下回っている。
- いずれの施策も「20歳代以下」の評価が高く、他の年代の評価が相対的に低くなっている。

図表 35 属性ごとの施策評価／環境分野

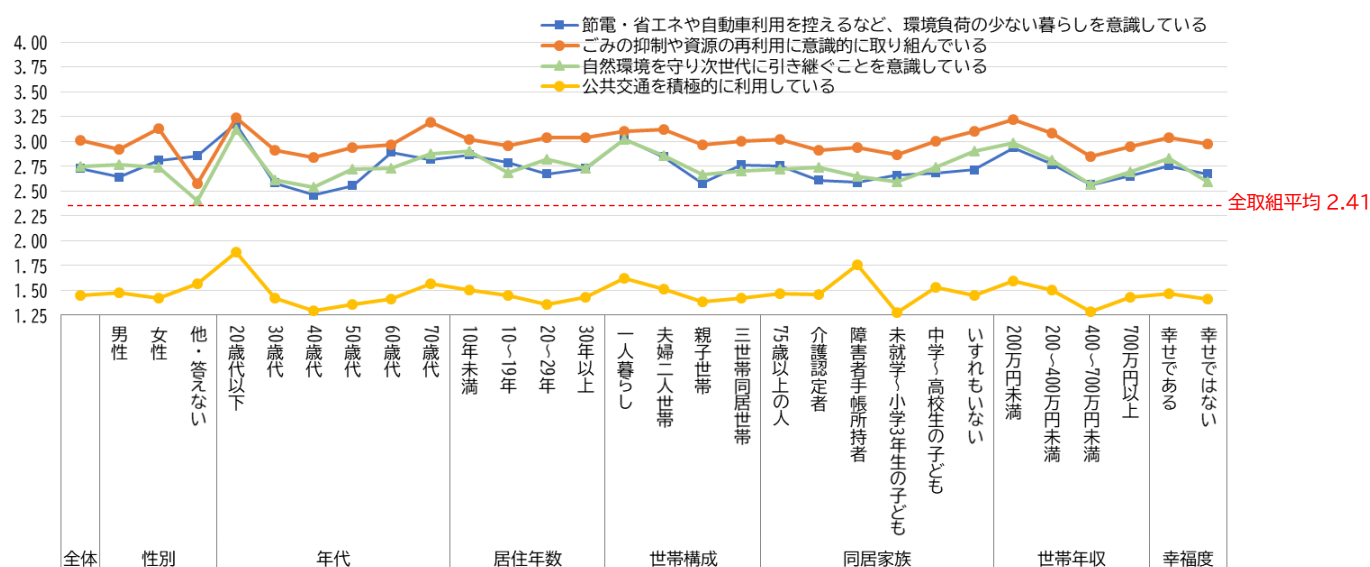


(2) 取組み状況

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
節電・省エネや自動車利用を控えるなど、環境負荷の少ない暮らしを意識している(n=436)	2.7	2.8	44.1	0.3
ごみの抑制や資源の再利用に意識的に取り組んでいる(n=438)	3.0	2.1	45.5	0.3
自然環境を守り次世代に引き継ぐことを意識している(n=434)	2.7	8.5	36.0	0.3
公共交通を積極的に利用している(n=436)	1.5	2.8	10.3	0.5

- 環境分野において住民に求められる取組みをみると、「節電・省エネや自動車利用を控えるなど、環境負荷の少ない暮らしを意識している」「ごみの抑制や資源の再利用に意識的に取り組んでいる」「自然環境を守り次世代に引き継ぐことを意識している」については全取組み平均を上回っている。
- 一方で「公共交通を積極的に利用している」については取組み状況が非常に低くなっている（全取組みの中で最低水準）。

図表 36 属性ごとの取組み状況／環境分野



5. 産業

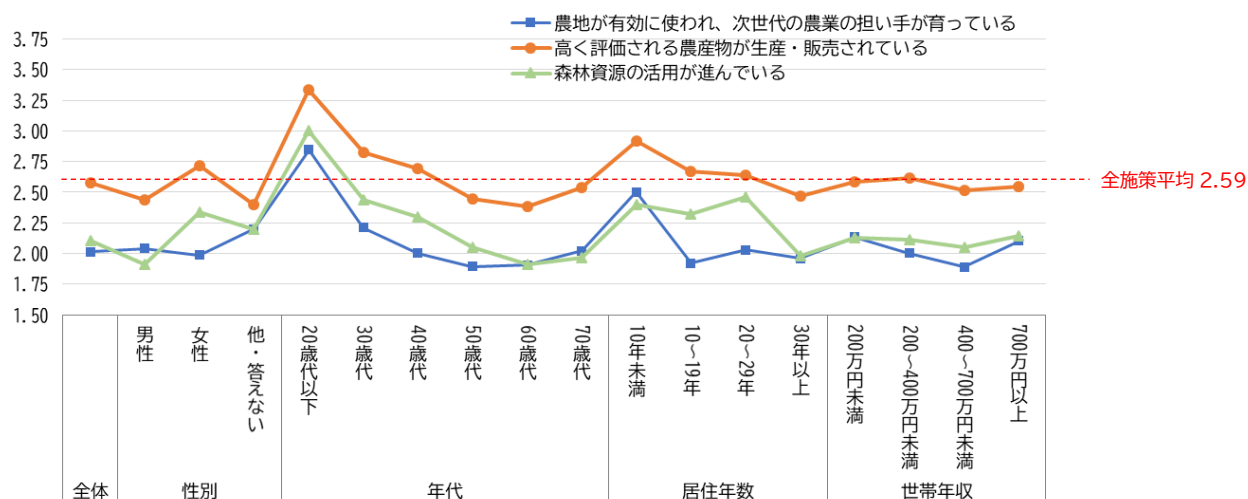
(1) 施策評価

①農林業

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
25	農地が有効に使われ、次世代の農業の担い手が育っている(n=437)	2.0	25.2	35.9
26	高く評価される農産物が生産・販売されている(n=434)	2.6	22.6	10.0
27	森林資源の活用が進んでいる(n=432)	2.1	37.5	5.4

- 産業分野のうち農林業に関連する3施策をみると、「高く評価される農産物が生産・販売されている」の評価は全施策平均評価（2.59）をわずかに上回っている一方、「農地が有効に使われ、次世代の農業の担い手が育っている」「森林資源の活用が進んでいる」の評価は平均を下回っている。
- 属性別にみると、年代が高くなるほど評価が下がる傾向がみられる。

図表 37 属性ごとの施策評価／産業分野（農林業）

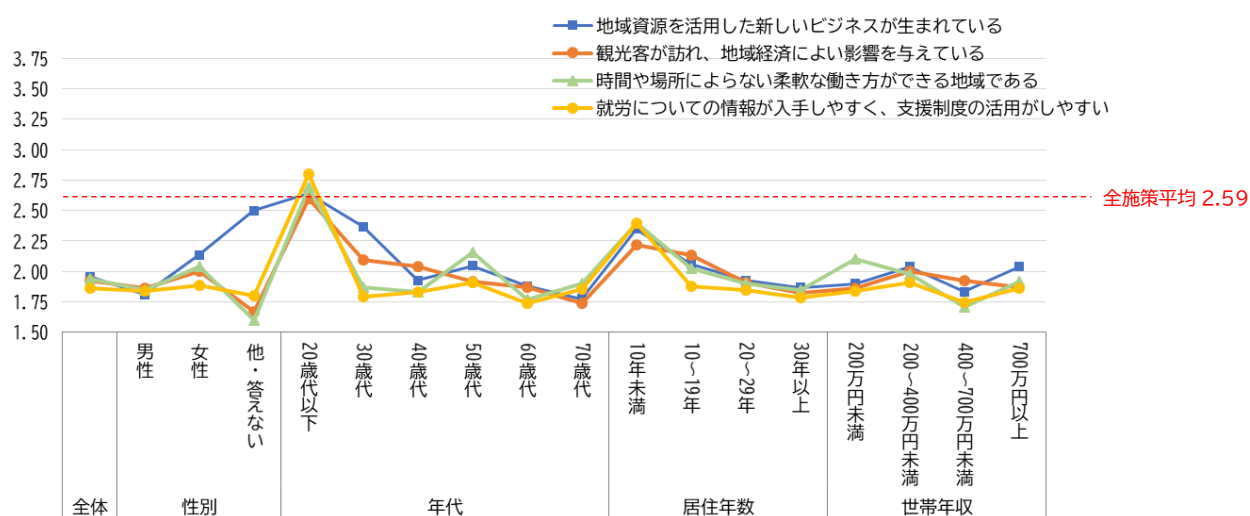


②その他の産業・就労

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
28	地域資源を活用した新しいビジネスが生まれている(n=431)	2.0	41.8	10.0
29	観光客が訪れ、地域経済によい影響を与えている(n=435)	1.9	26.0	17.3
30	時間や場所によらない柔軟な働き方ができる地域である(n=435)	1.9	35.4	7.8
31	就労についての情報が入手しやすく、支援制度の活用がしやすい(n=436)	1.9	39.9	13.5

- 産業分野のうちその他産業・就労についての4施策をみると、いずれも全施策平均評価(2.59)を下回っている。
- 属性別にみると、おおむね年代が高くなるほど評価が下がる傾向がみられる。

図表 38 属性ごとの施策評価／産業分野②



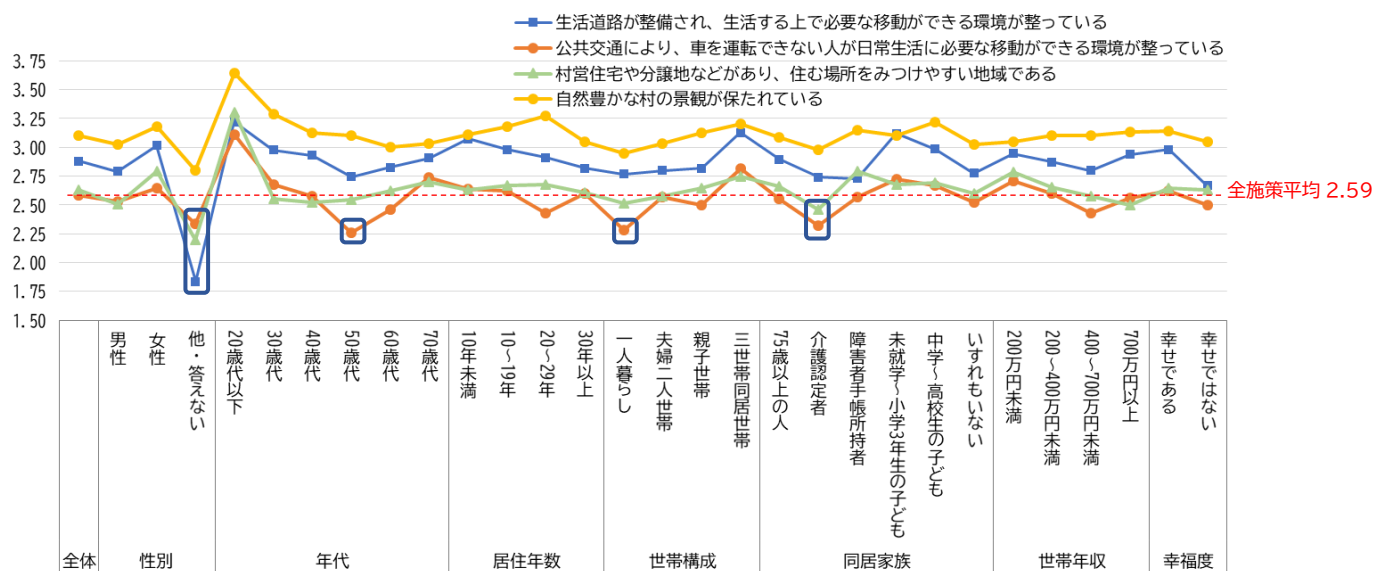
6. 都市整備

(1) 施策評価

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
32	生活道路が整備され、生活する上で必要な移動ができる環境が整っている(n=437)	2.9	7.3	16.7
33	公共交通により、車を運転できない人が日常生活に必要な移動ができる環境が整っている(n=437)	2.6	10.3	52.2
34	村営住宅や分譲地などがあり、住む場所をみつけやすい地域である(n=434)	2.6	25.3	12.6
35	自然豊かな村の景観が保たれている(n=433)	3.1	6.5	18.6

- 都市整備分野の4施策をみると、いずれも全施策平均評価(2.59)を上回っている。
- 属性別にみると、性別「他・答えない」、「50歳代」「一人暮らし」「介護認定者」が同居している家庭などで、評価が低くなっている。

図表 39 属性ごとの施策評価／都市整備分野



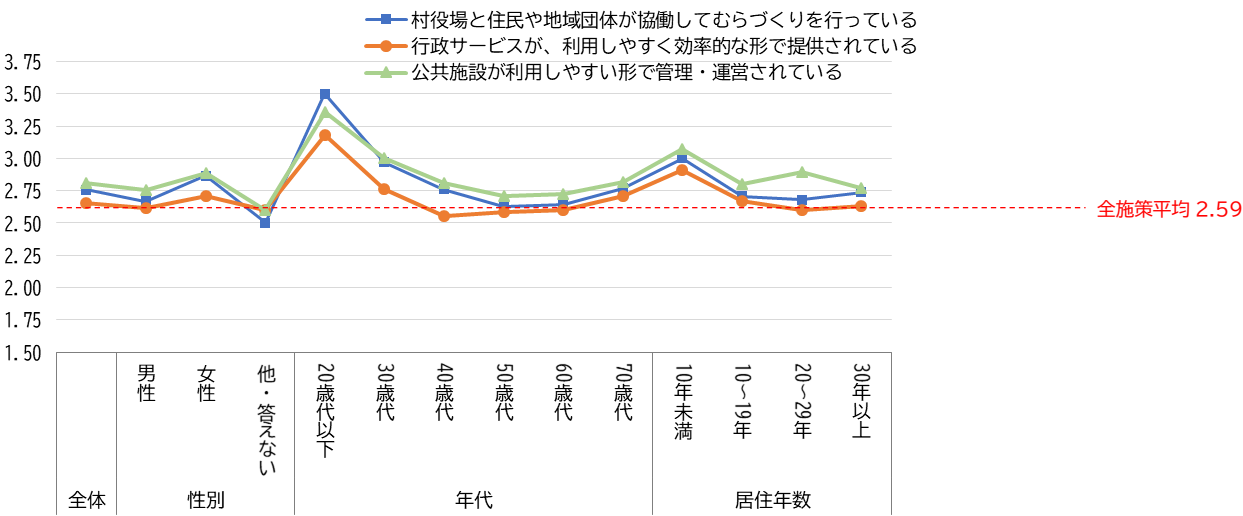
7. 行政経営

(1) 施策評価

	具体的な状況	そう思うかどうか (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	重要だと思う割合 (%)
36	村役場と住民や地域団体が協働してむらづくりを行っている(n=437)	<div><div></div></div> 2.8	<div><div></div></div> 28.1	<div><div></div></div> 48.7
37	行政サービスが、利用しやすく効率的な形で提供されている(n=439)	<div><div></div></div> 2.7	<div><div></div></div> 23.9	<div><div></div></div> 43.7
38	公共施設が利用しやすい形で管理・運営されている(n=437)	<div><div></div></div> 2.8	<div><div></div></div> 23.6	<div><div></div></div> 7.6

- 行政経営分野の3施策をみると、いずれも全施策平均評価（2.59）を上回っている。
- 属性別にみても、特定の属性で大きく評価が下がるところはあまり見受けられない。

図表 40 属性ごとの施策評価／行政経営分野

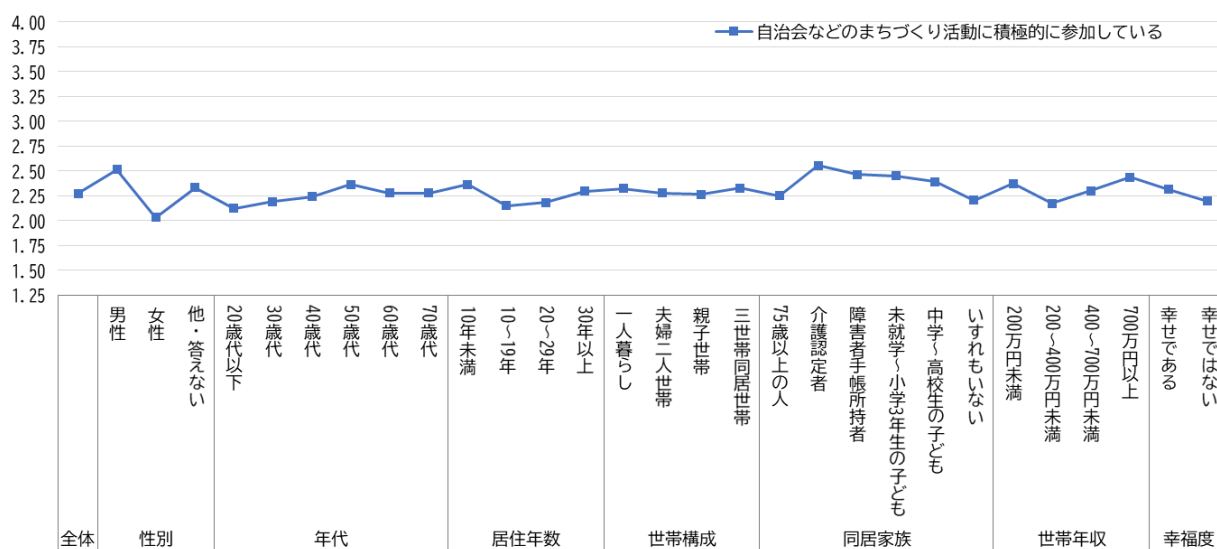


(2) 取組み状況

	取組み状況 (4～1点でポイント化)	わからない割合 (%)	さらに取組みたい 割合 (%)	減らしていく 割合 (%)
自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している(n=435)	2.3	3.9	19.8	2.6

- 行政経営分野に関連して住民に求められる「自治会などのまちづくり活動に積極的に参加している」取組みについては、全取組み平均を下回っている状況である。
- 属性別にみても、特定の属性で大きく取組みが高かったり低かったりするところは見受けられない。

図表 41 属性ごとの取組み状況／行政経営分野



IV. 総括

1. 結果のまとめ

●幸福度は二極化、支援を要する人や孤立傾向のある住民に幸福でない割合が高い

- ・幸福度を 0～10 点で回答を得たところ、平均は 6.89%で、比較的評価の高い8点（27.3%）と、評価の低い5点（21.8%）に回答が多く集まっており、幸せを平均以上に感じている住民と、平均以下に留まっている住民とで、二極化している可能性がある。
- ・幸福度が低い属性は、障害者手帳保持者、性別を回答しない人、暮らしに必要な用事を近所付き合いのなかで助け合っている人、介護認定者、近所付き合いがほとんどない人、一人暮らし等となっている。なんらかの支援を要する人や、近所付き合いがない・一人暮らしなど地域コミュニティに属しにくい人の幸福度が低いといえる。

●村への愛着は「性別についての認識」「近所付き合いのなさ」「幸福度の低さ」と関連

- ・村への愛着を 1～5 点で回答を得たところ、平均は 3.69 であった。この平均より、0.5 ポイント以上得点が低かった属性は、近所付き合いがほとんどない人、幸せではない人（幸福度が5点以下の人）、性別を回答しない人であった。

●村に住み続けたい意向は若い世代ほど低く、一人暮らしや幸福度の低い人でも低い

- ・村に住み続けたる意向をきいたところ、「これからも住み続けたい」の割合は全体としては 63.0% となったが、20 歳代以下では 36.8%に留まり、年代が若いほどこの割合が低くなった。
- ・「これからも住み続けたい」の割合が顕著に低い属性としては、ほかに「一人暮らし」（43.5%）、「幸せではない人（幸福度が5点以下の人）」（50.7%）などがある。

●施策評価は、「福祉」「環境（一部）」「産業」関連の施策で低い

- ・施策への評価では、保健・福祉分野における子ども・子育て関連、教育・文化分野、防災防犯分野、都市整備分野、行政経営分野において概ね高い評価が得られている。
- ・一方で保健・福祉分野における福祉関連、環境分野の一部（脱炭素や空き家対策）、産業分野において、評価が低くなっている。

●住民の取組みは「公共交通利用」「郷土文化の伝承」「地域活動」等で低い

優先分野に「子育て」「防災」「生活交通」があがるほか、「畑の手入れ」等に行政支援も必要

- ・村の施策に関連して住民に求められる取組みとしては、公共交通の利用、郷土文化の学びや伝承、地域活動において取組みが進んでいない状況にある。
- ・最も優先してほしいとの声が多かったのは「子育て支援、少子化対策」、次いで「自身や土砂災害などへの防災対策」「生活交通の確保」などとなった。
- ・「畑の手入れ」「行政手続き」は、手助けがほしい割合がそれぞれ 13.8%、11.6%と高い一方、手助けできると回答する住民の割合が比較的低くなっている。

2. 今後重点的に取り組むべきこと

(1) 施策全体の総括

- ・支援を要する人、何らかのマイノリティの立場にある人、生活に困りごとを抱える人、地域社会で孤立しがちな人などが、福祉をはじめとする行政サービスを適切に享受できるよう努める必要がある。
- ・産業分野の施策評価は軒並み低くなっており、村の産業振興の今後のあり方について検討が必要である。そのなかでも、農地の有効利用の評価が低いこと、「畑の手入れ」への支援が求められているなどを踏まえると、村の基幹産業である農業を持続可能な形にしていけることが重要であるといえる。
- ・子育て関連施策は、施策評価はおおむね高いものの、引き続き優先分野としての要望も強く、今後も現状の施策水準を維持し、子育てしやすい環境整備に注力することが重要である。

(2) 施策分野ごとの総括

1) 保健福祉

- ・子育て関連施策の評価は高い一方、「結婚・出産・子育ての切れ目のない支援」において、一人暮らしや低所得世帯などにも支援が行き届くよう留意する必要がある。また「助けを必要とすることもたちへの支援」では、性的マイノリティなど悩みを抱えがちな層が孤立しないよう努めることが求められる。
- ・障がい福祉や悩み相談等の福祉施策は、他の施策に比べてやや評価が低くなっており、特に低所得世帯、夫婦二人世帯、性的マイノリティ、その他支援を要する人が安心して頼れる環境づくりを進めることが重要である。
- ・住民同士の助け合いや自身の健康づくりの取組みは、30歳台～50歳代で低い傾向がある。村政の目指す自助・共助の取組みを進めるには、こうした現役世代がその取組みに関われるよう促すことや、公助として村が関わるべきことを再考・実践していくことなどが重要である。

2) 教育・文化

- ・教育・学習環境の施策は概ね評価が高いものの、不登校やいじめへの対応体制については、マイノリティの立場等からみれば十分でない可能性がある。
- ・生涯学習や文化スポーツ振興に係る施策において、地域活動や郷土文化への学び・伝承といった住民自身による取組みが進んでいないとみられる。情報を伝えるだけに留まらず、住民の実際の行動変容を促すことが必要である。

3) 防災・防犯

- ・概ね評価は高いものの、要介護認定者や幼児・児童、性的マイノリティなど、配慮を要する人にとって十分な体制・環境になるよう努める必要がある。

4) 環境

- ・自然環境保全や公害対策は評価が高い一方、脱炭素や空き家・空き地対策の評価が低く、村の施策が十分に周知・理解されていない可能性がある。住民への周知や協力促進もあわせて、実効性ある施策推進が求められる。
- ・積極的に公共交通を利用する住民は少ない状況であり、環境および車を運転できない住民の移動環境整備という意味でも、公共交通施策への理解・協力を促すことが重要となっている。

5) 産業

- ・産業施策の評価は軒並み低く、そのなかでも農地の有効利用と農業の担い手育成については「重要だと思う」割合が高くなっており、遊休荒廃地の解消や担い手確保など持続可能な農業の維持のための施策推進が重要となっている。その他、地域資源を活用したビジネスの振興、観光振興などの評価も低いなかで、現状の施策の効果も確認しながら、村内の経済活動の維持・活性化において有効な施策を検討する必要がある。
- ・「柔軟な働き方ができる」「就労支援が利用できる」といった、仕事が見つめやすく働きやすい環境づくりについても評価が低くなっており、施策の充実が求められる。

6) 都市整備

- ・景観、道路、住宅、公共交通などのインフラ関連については概ね評価は高い。ただし「一人暮らし」「介護認定者」が同居している家庭など、一部の住民において評価が低くなっており、特定の属性によって不便が生じにくいよう配慮することが重要である。

7) 行政経営

- ・行政サービス、公共施設、官民協働については概ね評価が高い。今後もデジタル化等最新のニーズに応じながら、現状の評価水準を維持していくことが重要である。
- ・住民による、自治会などのまちづくり活動への取組み状況は、他の取組みに比べて低い状況にある。官民の連携・協働を進めるにあたっては、住民がまちづくりに参加しやすい環境づくりや啓発等が重要といえる。